
II. 調查結果

1. あなたの団体について（団体のプロフィール）

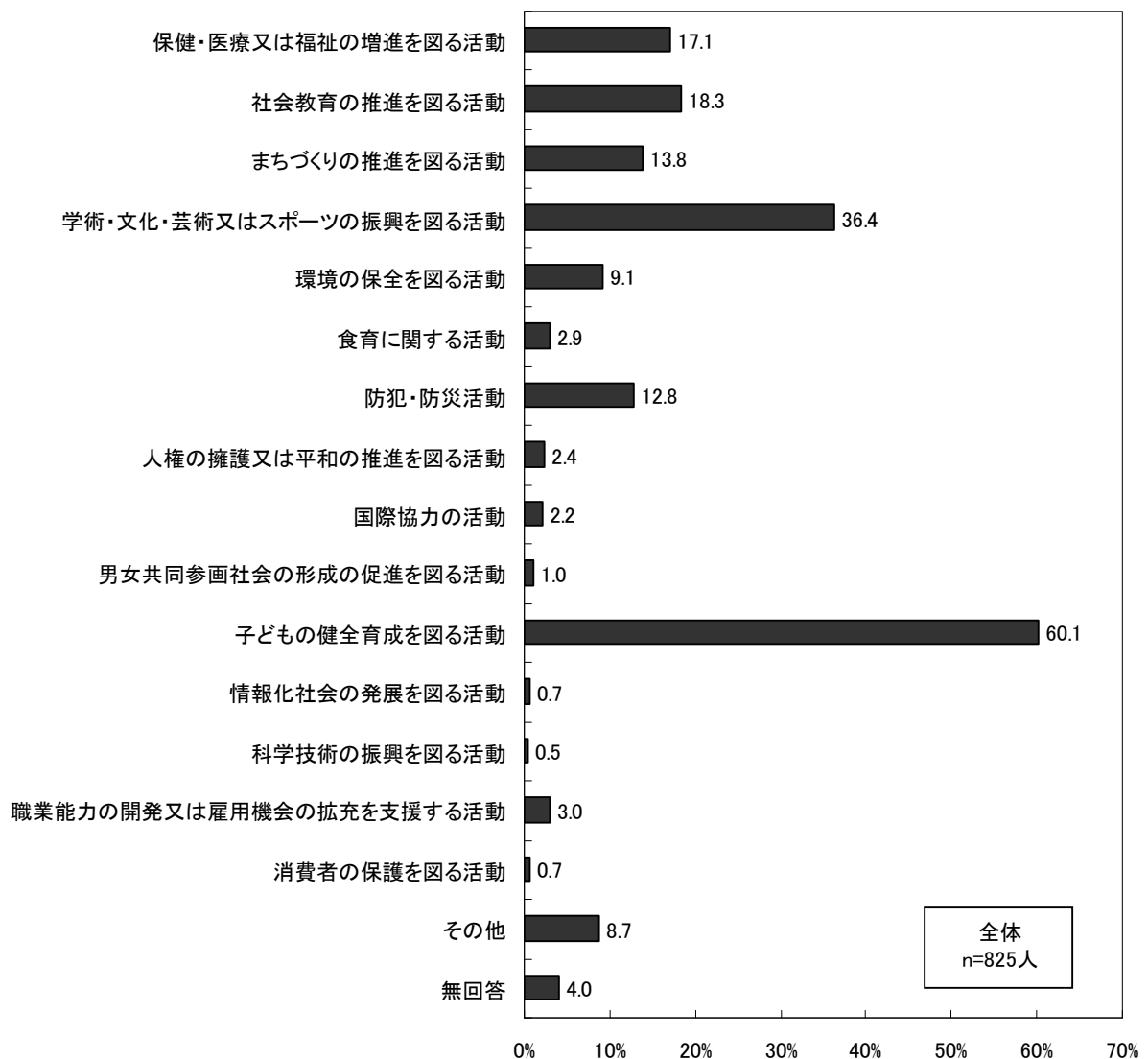
- (1) 団体名
 - (2) 代表者名
 - (3) 所在地
 - (4) 記入者（問い合わせ先）
- } 省略（記述式回答）

(5) 活動の分野

活動の分野について、あてはまるもの3つまで選び○をつけてください。（3A）

団体の活動分野をみると、「子どもの健全育成を図る活動」（60.1%）が最も多く6割を超えている。次に「学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動」（36.4%）、「社会教育の推進を図る活動」（18.3%）、「保健・医療又は福祉の推進を図る活動」（17.1%）の順に続く。

子どもの健全育成にかかわる団体が多いことが分かる。



活動分野と調査団体区分との関連

婦人会、NPO法人、事業所・企業を除いた調査団体区分では、「子どもの健全育成を図る活動」が5割以上を占めている。

「NPO法人」の活動分野では、「保健・医療又は福祉の増進を図る活動」(40.6%)が最も多い。次に「子どもの健全育成を図る活動」(28.1%)、「まちづくりの推進を図る活動」(23.4%)、「環境の保全を図る活動」(21.9%)の順に続く。

「事業所・企業」の活動分野では、「学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動」(62.4%)が最も多く6割を超えている。次に「子どもの健全育成を図る活動」(28.5%)、「保健・医療又は福祉の推進を図る活動」(19.3%)、「社会教育の推進を図る活動」(17.9%)の順に続く。

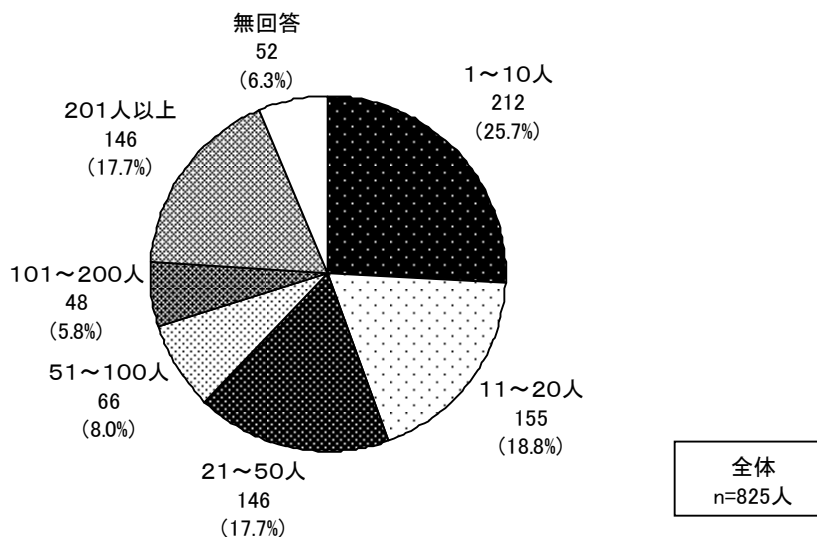
	(5)活動の分野																	
		保健・医療又は福祉の増進を図る活動	社会教育の推進を図る活動	まちづくりの推進を図る活動	学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動	環境の保全を図る活動	食育に関する活動	防犯・防災活動	人権の擁護又は平和の推進を図る活動	国際協力の活動	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	子どもの健全育成を図る活動	情報化社会の発展を図る活動	科学技術の振興を図る活動	職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	消費者の保護を図る活動	その他	無回答
全体 (n=825)		17.1	18.3	13.8	36.4	9.1	2.9	12.8	2.4	2.2	1.0	60.1	0.7	0.5	3.0	0.7	8.7	4.0
調査団体区分	青少年育成協議会 (n=32)	-	34.4	9.4	12.5	31.3	6.3	34.4	6.3	-	-	87.5	-	-	-	-	-	6.3
	小・中学校PTA (n=101)	2.0	18.8	5.0	23.8	10.9	3.0	14.9	-	-	-	85.1	-	-	-	-	9.9	5.0
	婦人会 (n=6)	50.0	16.7	50.0	-	-	16.7	16.7	-	-	16.7	-	-	-	-	33.3	-	33.3
	民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会 (n=69)	56.5	17.4	24.6	4.3	7.2	1.4	34.8	5.8	-	-	91.3	-	-	1.4	1.4	13.0	-
	子ども会 (n=121)	2.5	8.3	15.7	5.8	9.1	2.5	7.4	-	-	-	90.9	-	-	-	-	2.5	2.5
	ボーイ・ガールスカウト、健民少年団、海洋少年団 (n=14)	-	57.1	-	-	28.6	-	-	7.1	28.6	7.1	100.0	-	-	-	-	7.1	-
	NPO法人 (県認証のうち市内に住所をおくもの) (n=64)	40.6	14.1	23.4	14.1	21.9	9.4	6.3	10.9	4.7	4.7	28.1	4.7	4.7	14.1	3.1	12.5	1.6
	地域コミュニティ協議会 (n=56)	25.0	8.9	62.5	17.9	25.0	5.4	67.9	-	-	-	50.0	-	-	-	-	3.6	1.8
	事業所・企業 (医療、福祉／教育、学習支援) (n=274)	19.3	17.9	2.6	62.4	2.2	1.5	1.5	2.2	3.6	0.7	28.5	1.1	0.4	5.5	0.4	11.3	6.2
	スポーツ少年団 (n=60)	1.7	36.7	1.7	81.7	-	1.7	-	-	-	-	91.7	-	-	-	-	5.0	-
	伝統文化に関わる団体 (n=28)	-	17.9	32.1	82.1	-	-	-	-	3.6	3.6	57.1	-	-	-	-	17.9	7.1

(6) 会員数

会員数（事業所・企業は従業員数または職員数と読みかえて回答してください）について、子どもは含めずにあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。
(SA)

団体の会員数をみると、「1～10人」(25.7%)が最も多い。次に「11人～20人」(18.8%)「21人～50人」(17.7%)、「201人以上」(17.7%)の順に続く。

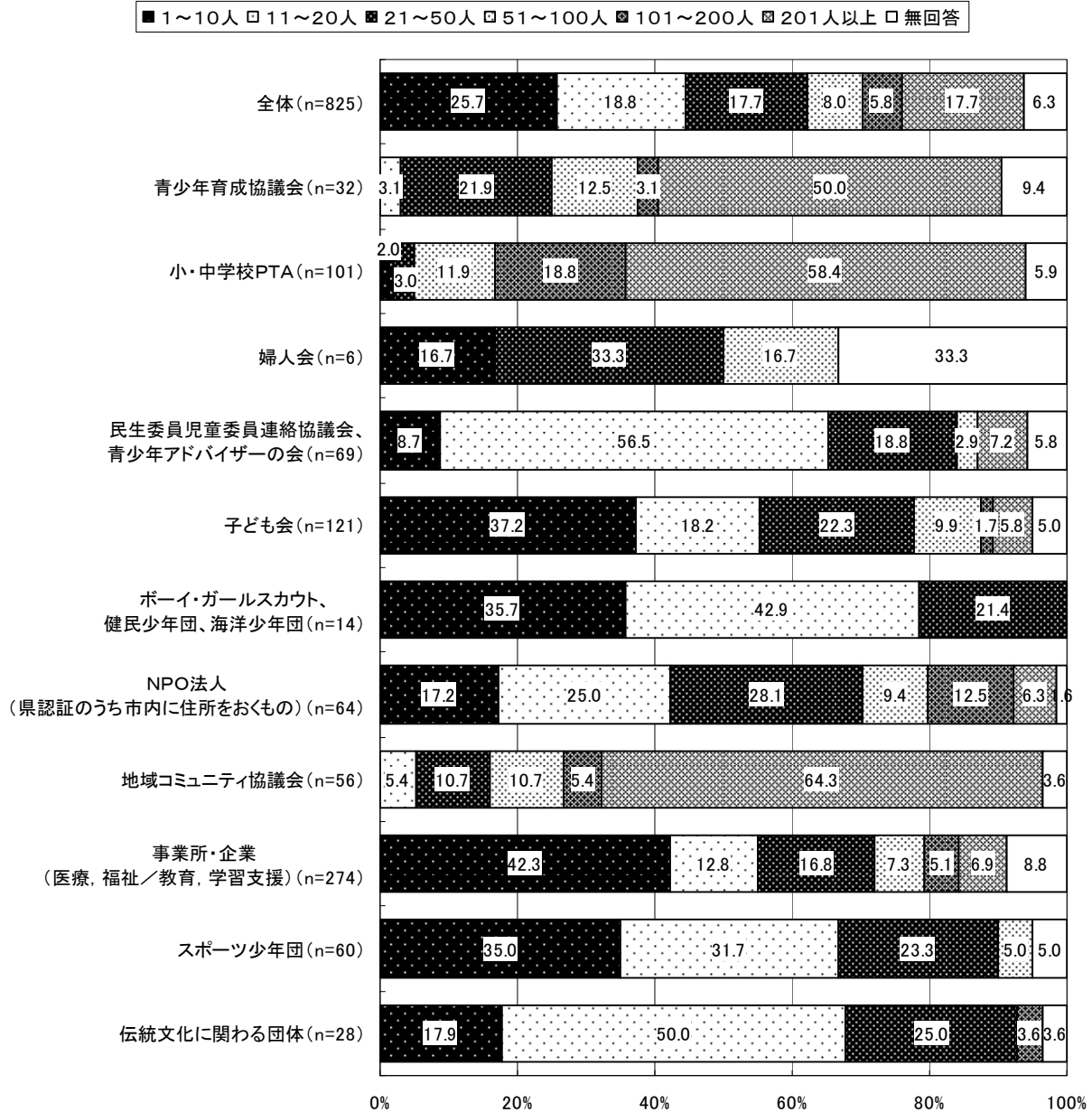
50人以下の団体が多い（6割を超えている）ことが分かる。



会員数と調査団体区分との関連

会員数が51人以上の比較的規模の大きい団体の割合を調査団体区分別でみると、「小学校PTA、中学校PTA」(89.1%)、「地域コミュニティ協議会」(80.4%)、「青少年育成協議会」(65.6%)では6割を超えている。

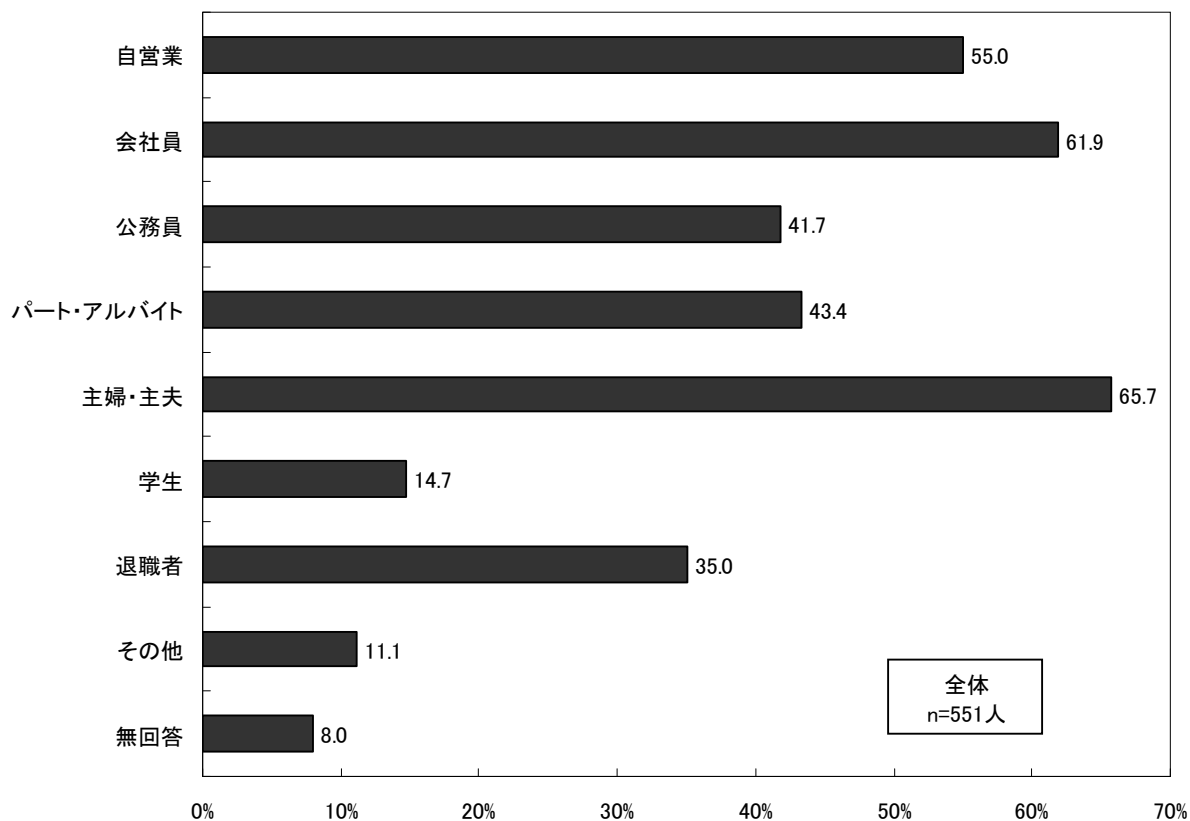
一方、「ボーイスカウト、ガールスカウト、健民少年団、海洋少年団」(0%)、「スポーツ少年団」(5.0%)、「伝統文化に関わる団体」(3.6%)では5%以下である。



(7) 会員の職業（事業所・企業は除く）

会員の職業として、あてはまる番号にすべて○をつけてください。（MA）

会員の職業をみると、「主婦・主夫」（65.7%）が最も多い。次に「会社員」（61.9%）、「自営業」（55.0%）、「パート・アルバイト」（43.4%）の順に続く。

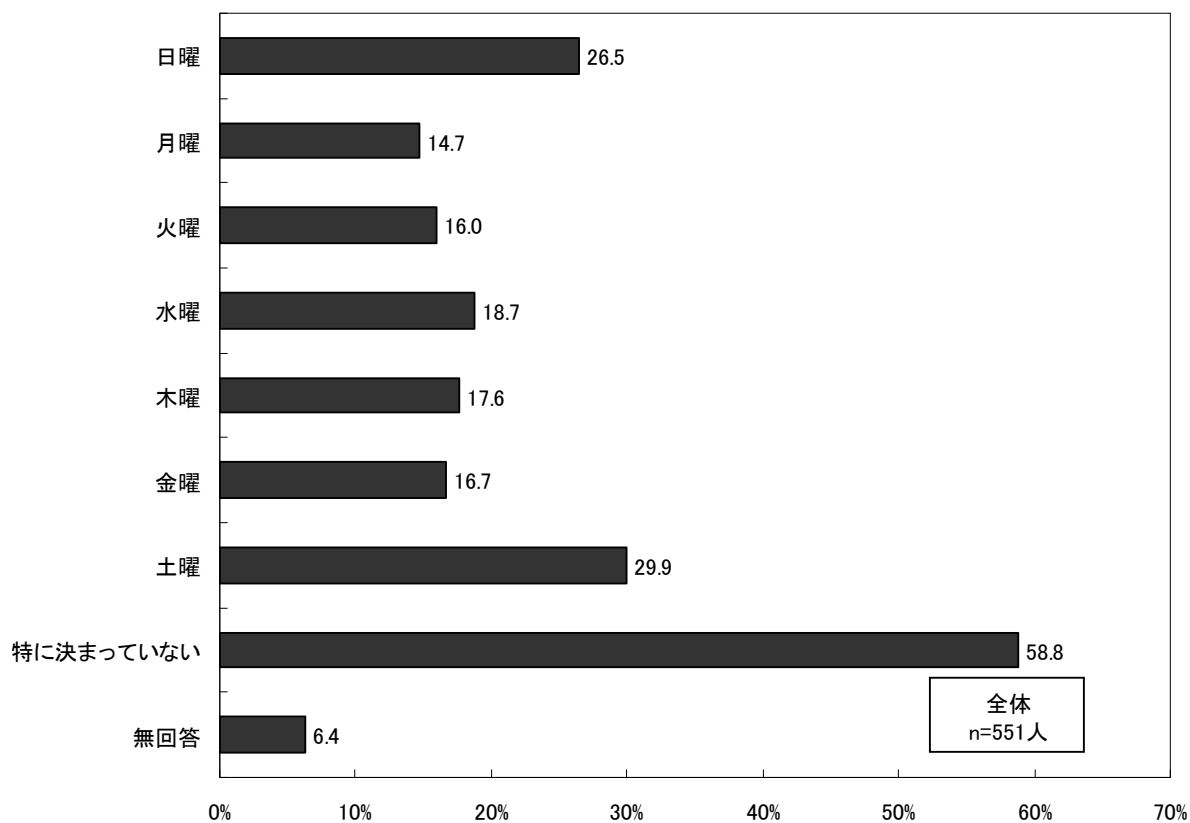


(8) 活動の曜日（事業所・企業は除く）

活動の曜日として、あてはまる番号にすべて○をつけてください。（MA）

活動の曜日を見ると、「特に決まっていない」（58.8%）が最も多く6割近くを占めている。次に「土曜」（29.9%）、「日曜」（26.5%）、「水曜」（18.7%）の順に続く。

平日の各曜日に比べて土曜日・日曜日の活動がやや多いことが分かる。



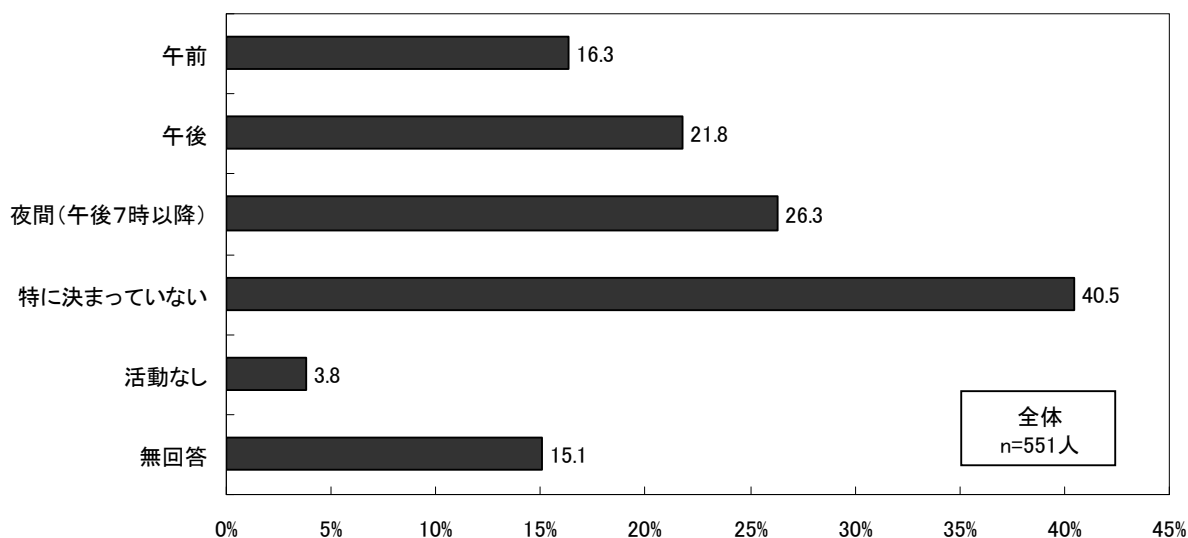
(9) 主な活動時間帯（事業所・企業は除く）

主な活動時間帯として、平日（月～金）とそれ以外の日について、それぞれあてはまる番号にすべて○をつけてください。（MA）

① 平日（月～金）

平日における主な活動時間帯をみると、「特に決まっていない」(40.5%)が最も多い。次に「夜間（午後7時以降）」(26.3%)、「午後」(21.8%)の順に続く。

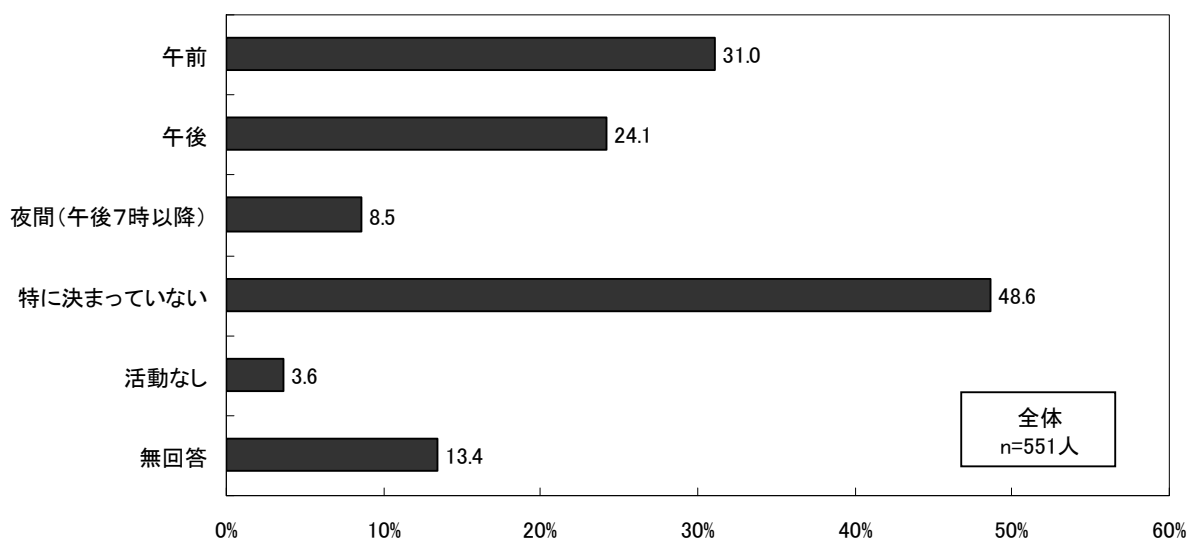
午後と夜間（午後7時以降）に比べて午前の活動がやや少ないことが分かる。



② 土・日・祝日

土・日・祝日における主な活動時間帯をみると、「特に決まっていない」(48.6%)が最も多い。次に「午前」(31.0%)、「午後」(24.1%)の順に続く。

午前と午後と比べて夜間（午後7時以降）の活動がかなり少ないことが分かる。

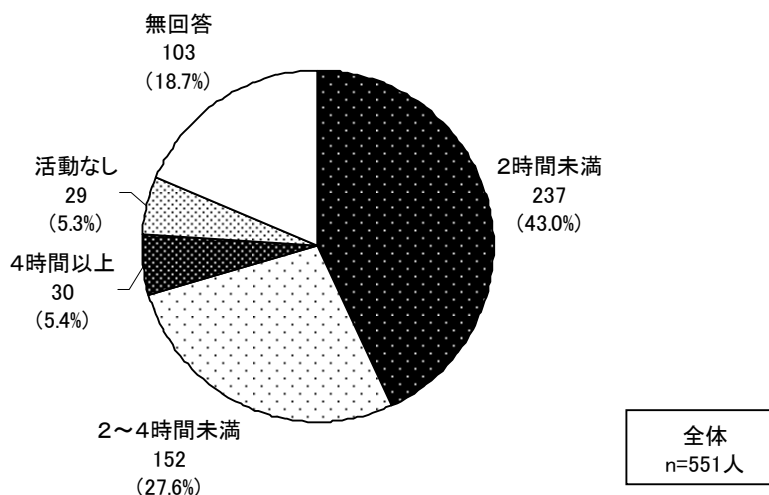


(10) 1回当たりの実活動時間（事業所・企業は除く）

1回当たりのおおよその実活動時間について、平日（月～金）とそれ以外の日について、それぞれあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。（SA）

① 平日（月～金）

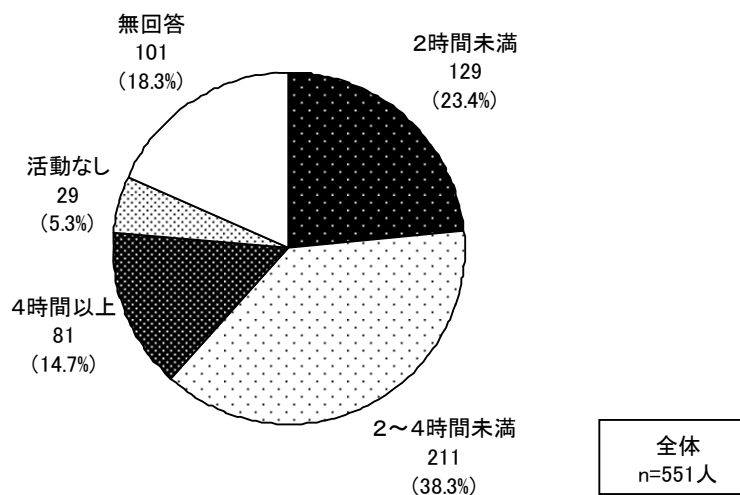
平日における1回当たりの実活動時間をみると、「2時間未満」(43.0%)が最も多い。次に「2～4時間未満」(27.6%)、「4時間以上」(5.4%)の順に続く。



② 土・日・祝日

土・日・祝日における1回当たりの実活動時間をみると、「2～4時間未満」(38.3%)が最も多い。次に「2時間未満」(23.4%)、「4時間以上」(14.7%)の順に続く。

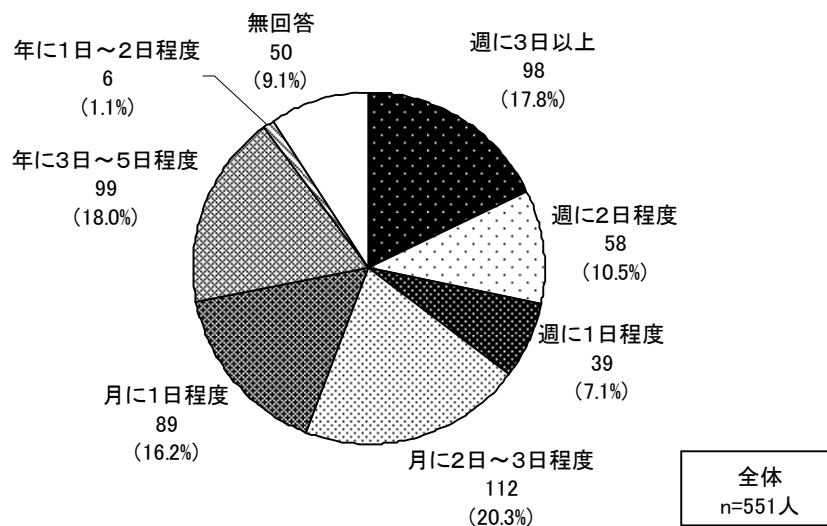
平日に比べて、2時間以上の割合が20ポイント高く、4時間以上でも9.3ポイント高く、活動時間がやや長いことが分かる。



(11) 年間の活動日数（事業所・企業は除く）

年間のおおよその活動日数について、あてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。（SA）

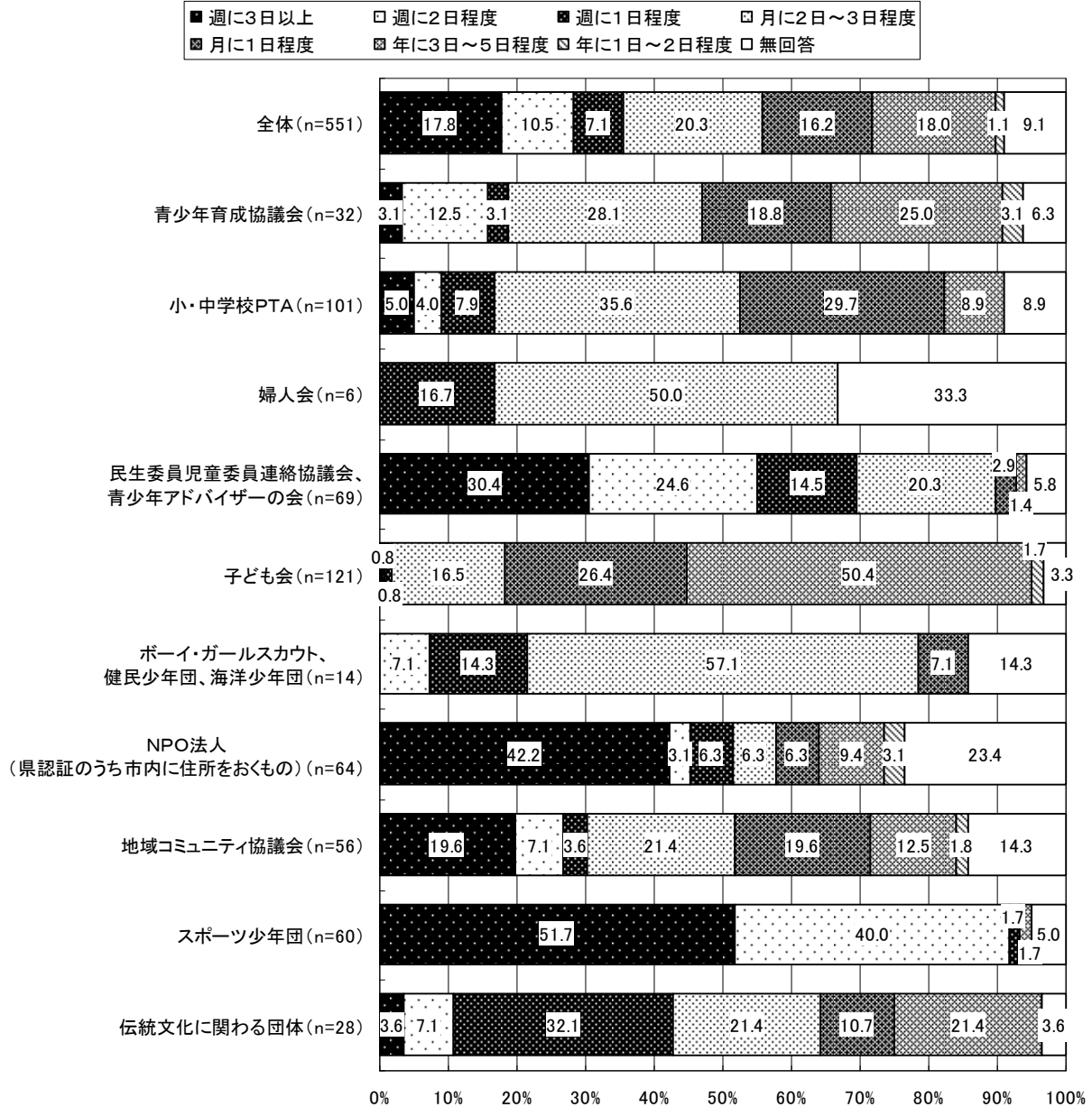
年間の活動日数をみると、「月に2日～3日程度」（20.3%）が最も多い。次に「年に3日～5日程度」（18.0%）、「週に3日以上」（17.8%）、「月に1日程度」（16.2%）の順に続く。月に1日以上活動している団体が多い（7割を超えている）ことが分かる。



年間の活動日数と調査団体区分との関連

週に1日以上活動している比較的活動頻度の高い団体の割合を調査団体区分別で見ると、「スポーツ少年団」(93.4%)が最も多く9割を超えている。次に「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」(69.5%)、「NPO法人」(51.6%)、「伝統文化に関わる団体」(42.8%)の順に続く。

一方、「子ども会」(1.6%)は2%以下で、他の調査団体区分に比べてかなり少ない。



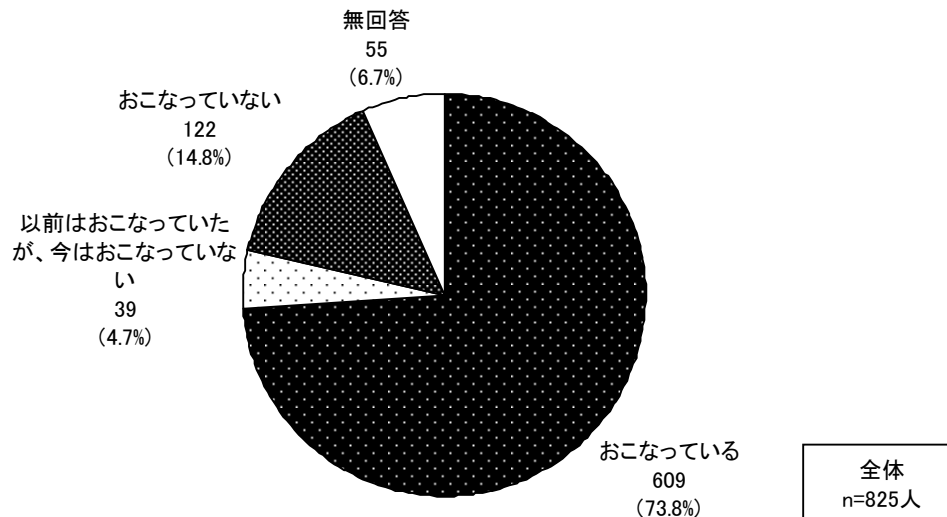
2. 地域で団体が子どもたちにかかわる活動の様子について

(1) 活動の有無

問1 地域において、あなたの団体は子どもたちにかかわる活動をおこなっていますか。
あてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)

活動の有無をみると、「おこなっている」(73.8%)が7割を超えている。

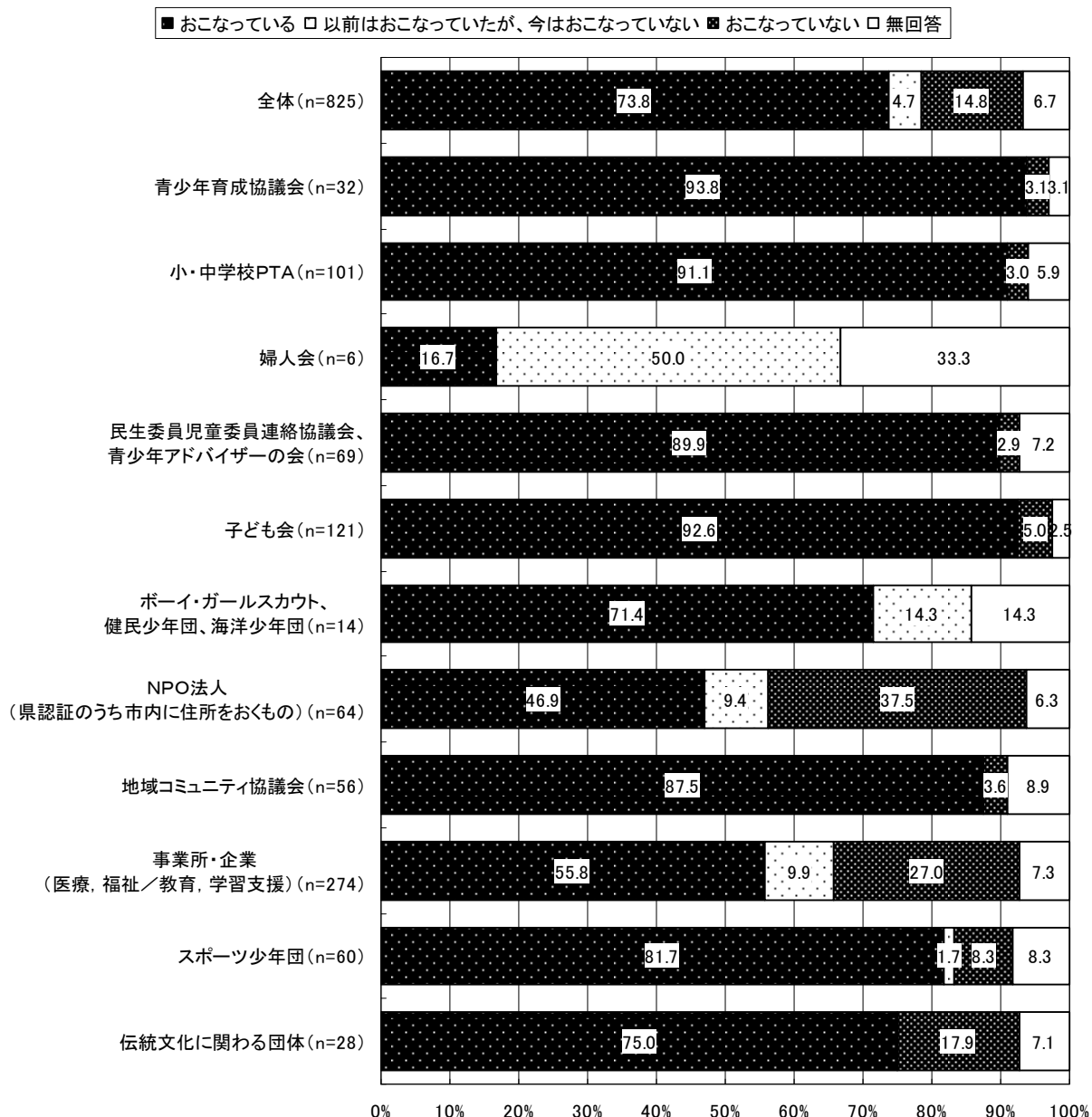
第1章活動の分野で、「子どもの健全育成を図る活動」(60.1%)が6割を超えていることとの関連がうかがえる。



活動の有無と調査団体区分との関連

活動を「おこなっている」団体の割合を調査団体区分別でみると、「青少年育成協議会」(93.8%)が最も多い。次に「子ども会」(92.6%)、「小学校PTA、中学校PTA」(91.1%)、「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」(89.9%)の順に続く。

一方、「おこなっていない」、「以前はおこなっていたが、今はおこなっていない」を合わせた調査団体区分では、「婦人会」(50.0%)が最も多い。次に「NPO法人」(46.9%)、「事業所・企業」(36.9%)、「伝統文化に関わる団体」(17.9%)の順に続く。

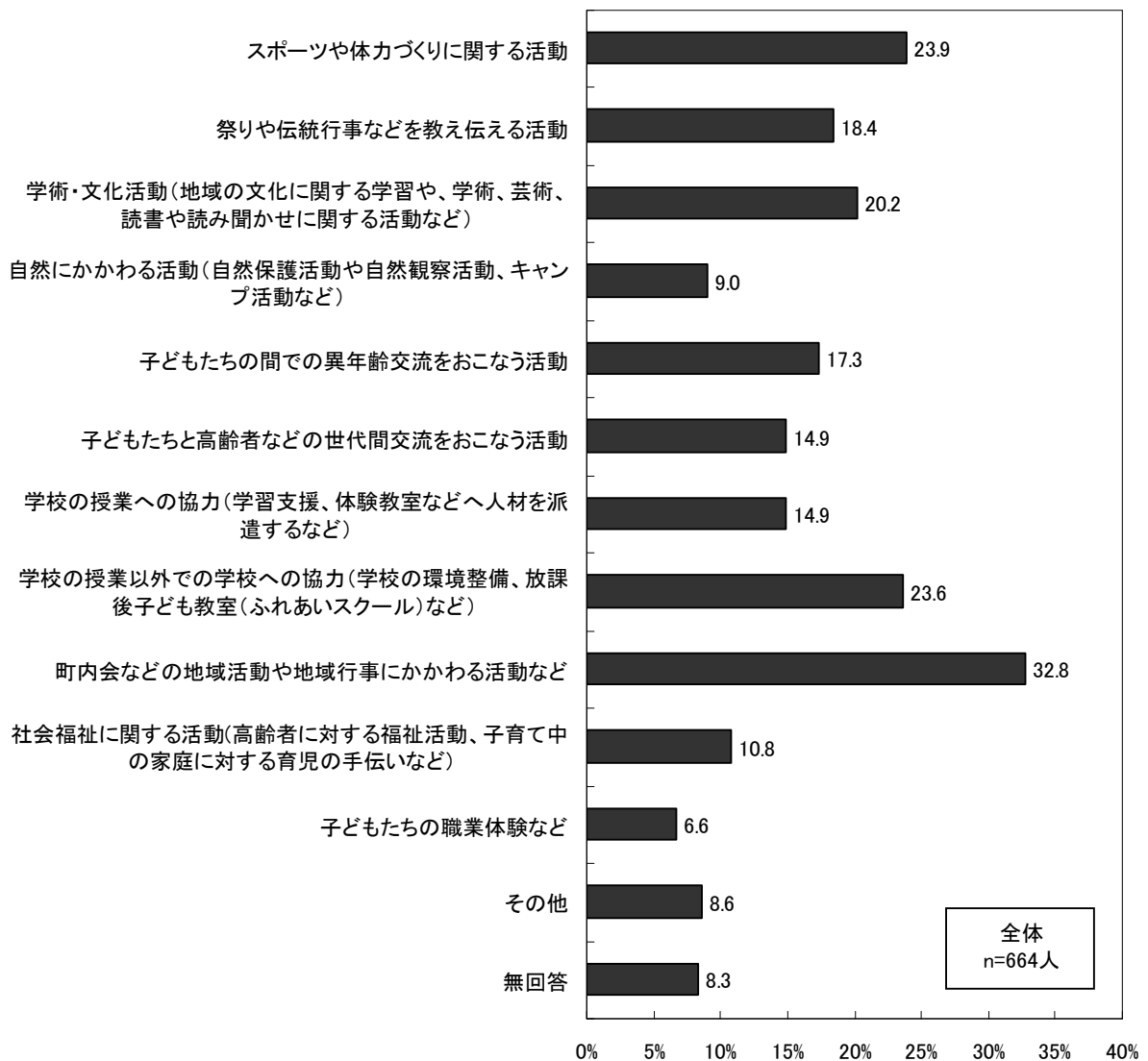


(2) 活動内容

<問1で「おこなっている」を選んだ団体のみ回答>

問2 子どもたちにかかわる活動とはどのような活動ですか。あてはまるものを3つまで
選び○をつけてください。(3A)

活動を「おこなっている」団体のその活動内容をみると、「町内会などの地域活動や地域行事にかかわる活動など」(32.8%)が最も多い。次に「スポーツや体力づくりに関する活動」(23.9%)、「学校の授業以外での学校への協力(学校の環境整備、放課後子ども教室(ふれあいスクール)など)」(23.6%)、「学術・文化活動(地域の文化に関する学習や、学術、芸術、読書や読み聞かせに関する活動など)」(20.2%)の順に続く。



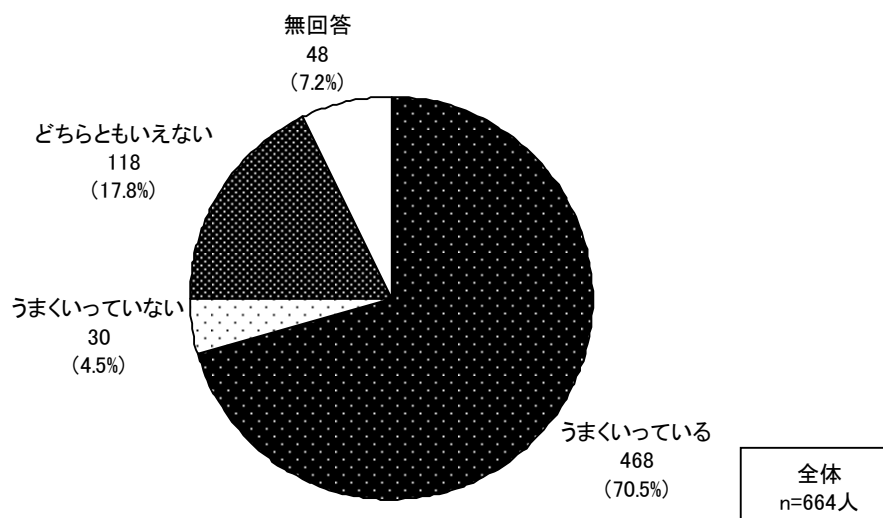
(3) 活動状況

<問1で「おこなっている」を選んだ団体のみ回答>

問3 現在、地域において、あなたの団体でおこなっている子どもたちとかかわる活動はうまくいっていますか。あてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)

活動を「おこなっている」団体のその活動状況を見ると、「うまくいっている」(70.5%)が7割を超えている。

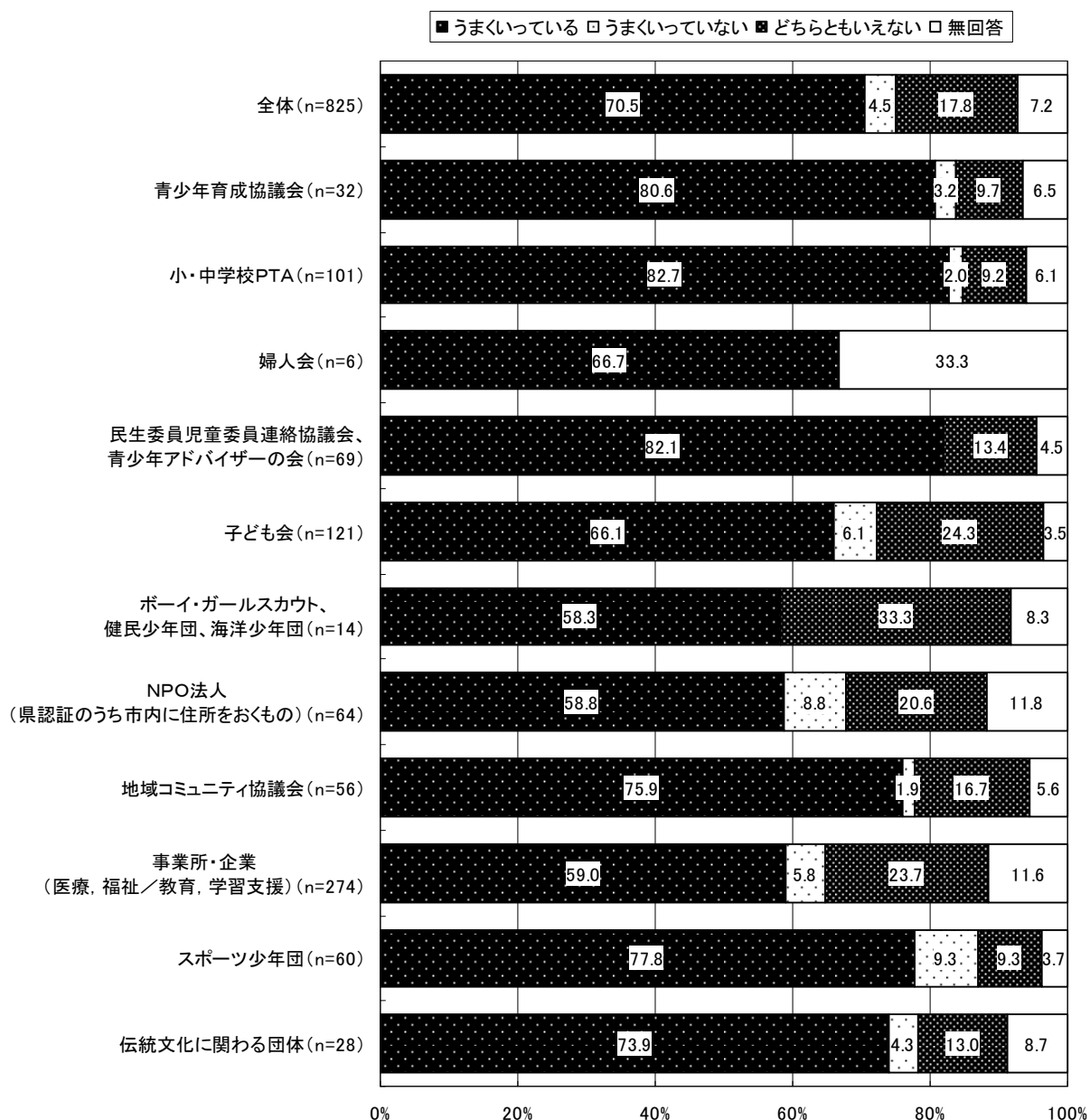
一方、「うまくいっていない」(4.5%)は5%以下である。



活動状況と調査団体区分との関連

活動を「おこなっている」、そして、「うまくいっている」団体の割合を調査団体区分別でみると、「小学校PTA、中学校PTA」(82.7%)が最も多い。次に「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」(82.1%)、「青少年育成協議会」(80.6%)、「スポーツ少年団」(77.8%)の順に続き、最も少ない「ボーイスカウト、ガールスカウト、健民少年団、海洋少年団」(58.3%)でも6割近くがうまくいっていると回答している。

一方、「うまくいっていない」調査団体区分では、「スポーツ少年団」(9.3%)が最も多い。次に「NPO法人」(8.8%)、「子ども会」(6.1%)、「事業所・企業」(5.8%)の順に続いているが、いずれも1割以下である。



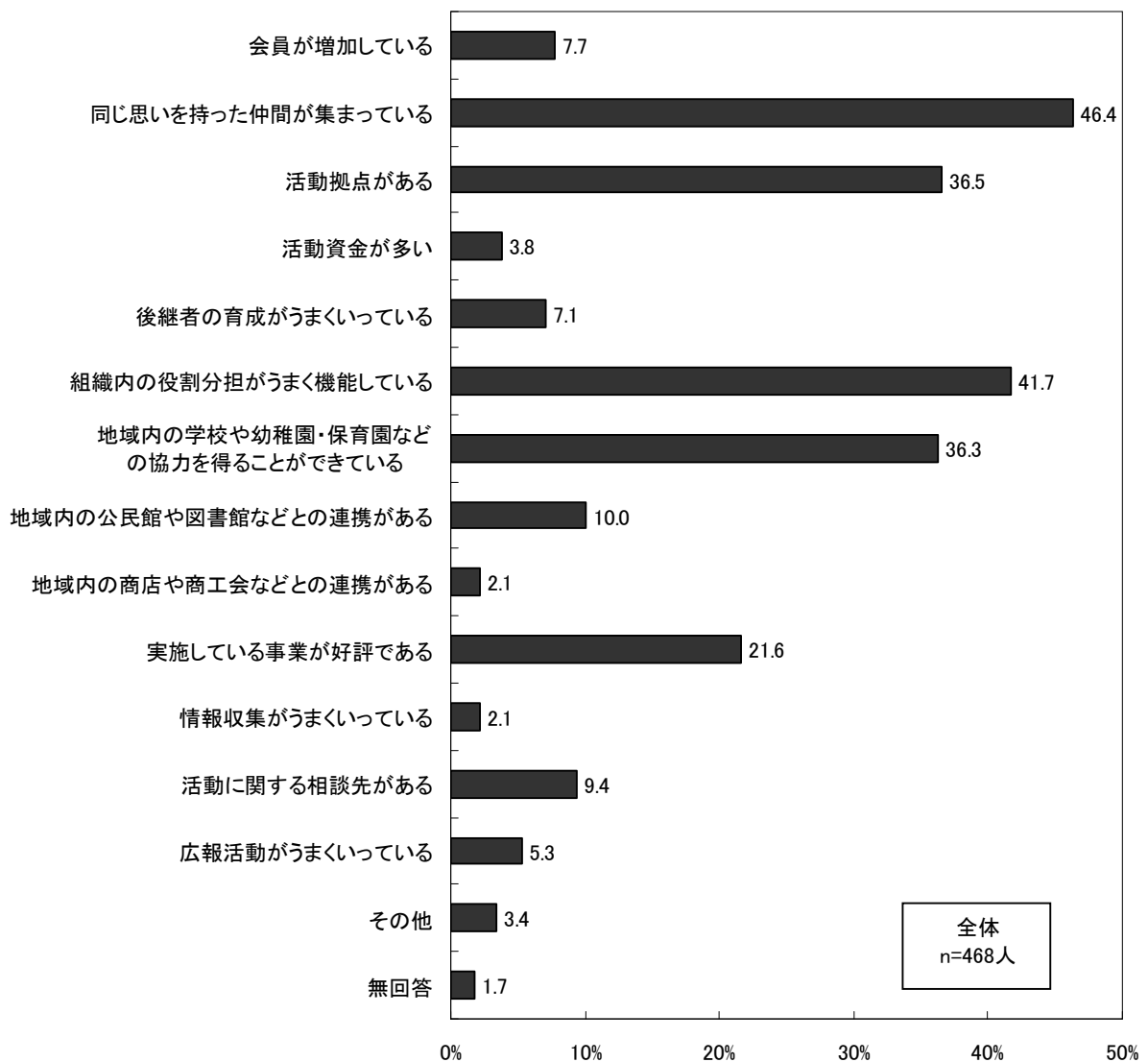
(4) 活動がうまくいっている要因

<問3で「うまくいっている」を選んだ団体のみ回答>

問4 「うまくいっている」団体のみお答えください。
「うまくいっている」要因についてあてはまるもの3つまで選び○をつけてください。(3A)

活動を「おこなっている」団体のその活動がうまくいっている要因をみると、「同じ思いを持った仲間が集まっている」(46.4%)が最も多い。次に「組織内の役割分担がうまく機能している」(41.7%)、「活動拠点がある」(36.5%)、「地域内の学校や幼稚園・保育園などの協力を得ることができている」(36.3%)の順に続く。

「活動資金が多い」(3.8%)は4%以下である。



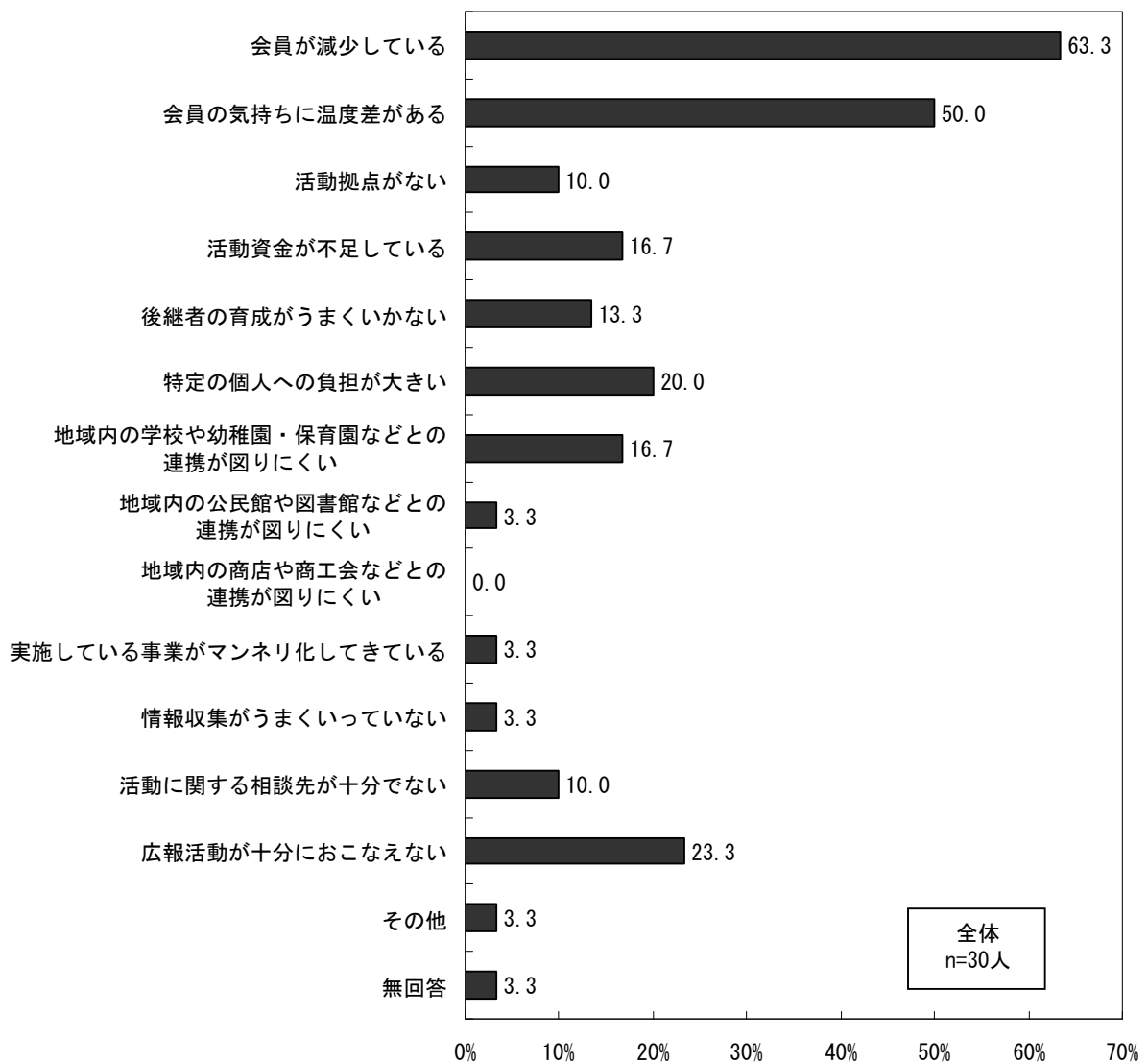
(5) 活動がうまくいっていない要因

<問3で「うまくいっていない」を選んだ団体のみ回答>

問5 「うまくいっていない」団体のみお答えください。
「うまくいっていない」要因についてあてはまるもの3つまで選び○をつけてください。(3A)

活動を「おこなっている」団体のその活動がうまくいっていない要因をみると、「会員が減少している」(63.3%)が最も多い。次に「会員の気持ちに温度差がある」(50.0%)、「広報活動が十分におこなえない」(23.3%)、「特定の個人への負担が大きい」(20.0%)の順に続く。

活動がうまくいかないのは、人的な要因が大きいことがうかがえる。



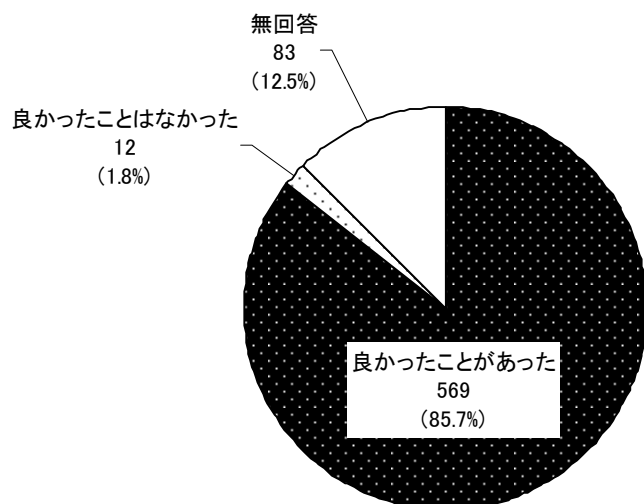
(6) 活動をおこなった感想

<問1で「おこなっている」を選んだ団体のみ回答>

問6 地域において子どもたちとかかわる活動をおこなって良かったことはありましたか。あてはまるものをいずれか選び、その番号に○をつけてください。(SA)

活動を「おこなっている」団体のその活動を実施した感想をみると、「良かったことがあった」(85.7%)が8割を超えている。

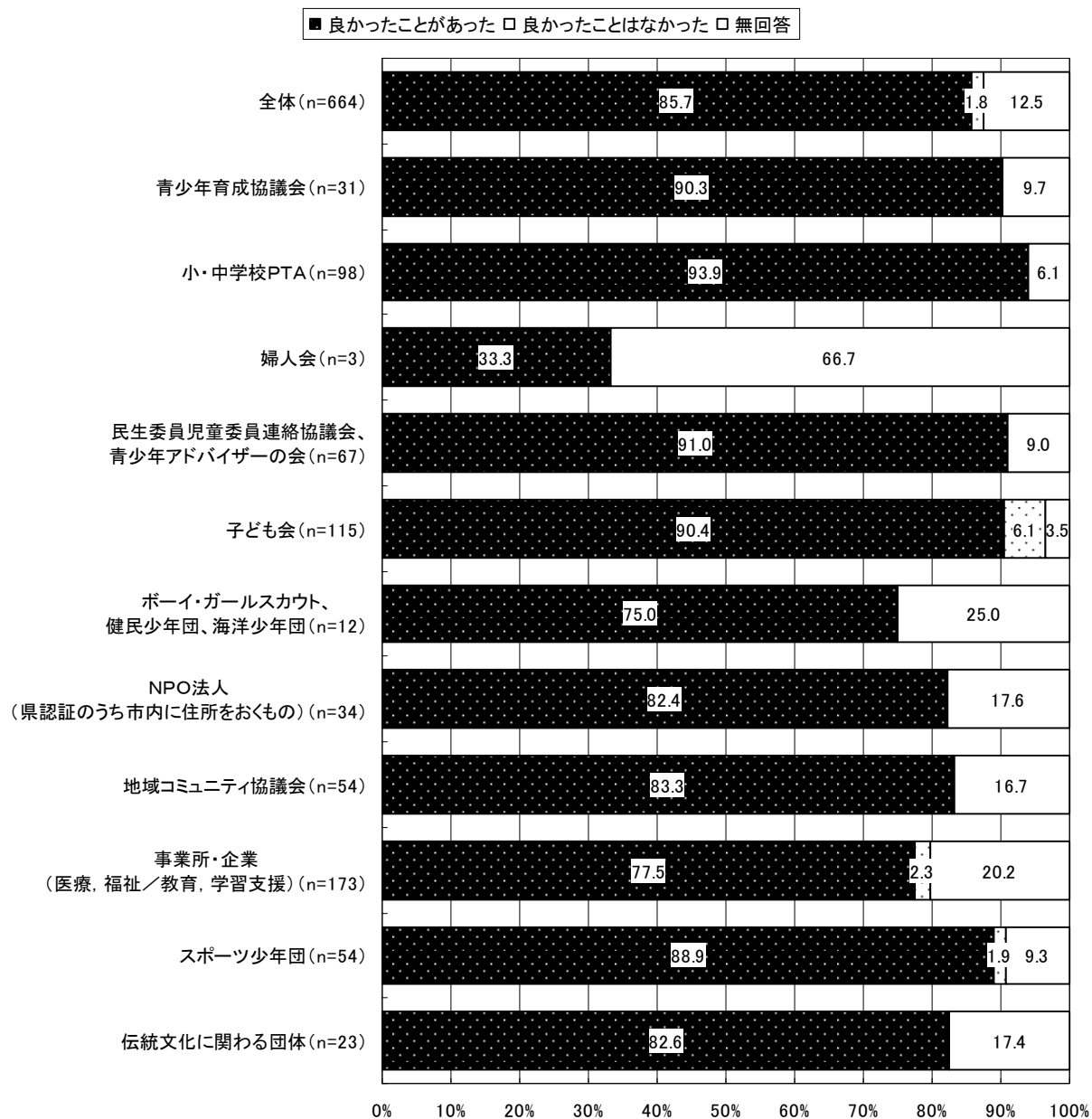
一方、「良かったことはなかった」(1.8%)は2%以下である。



活動をおこなった感想と調査団体区分との関連

活動を「おこなっている」、そして、「良かったことがあった」団体の割合を調査団体区分別でみると、「小学校PTA、中学校PTA」(93.9%)が最も多い。次に「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」(91.9%)、「子ども会」(90.4%)、「青少年育成協議会」(90.3%)の順に続く。

一方、「良かったことはなかった」調査団体区分は、「子ども会」(6.1%)、「事業所・企業」(2.3%)、「スポーツ少年団」(1.9%)のみで、いずれも7%以下である。

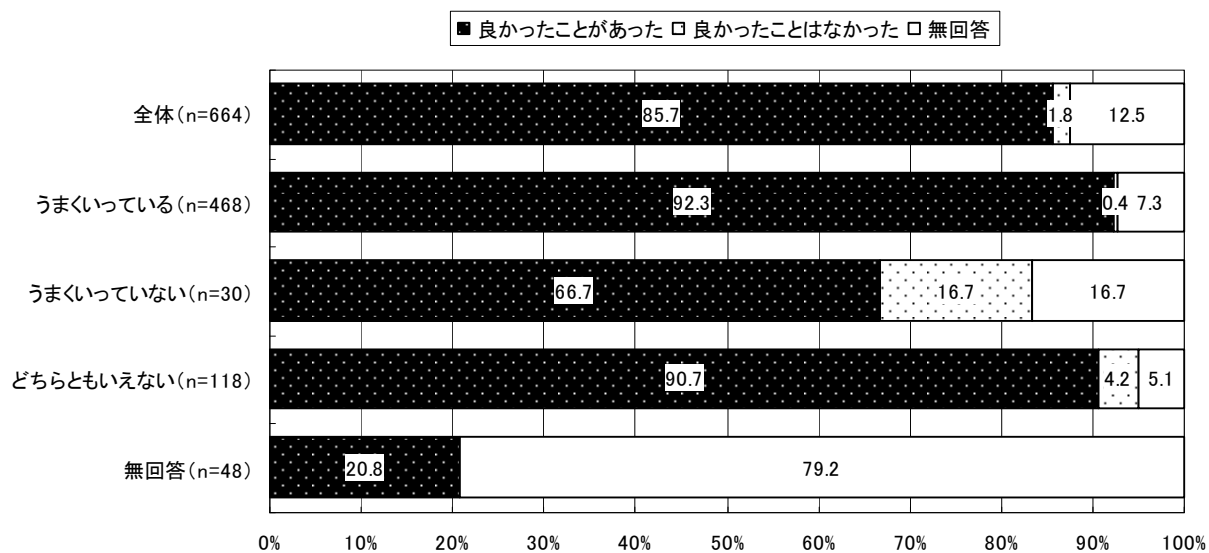


活動状況と活動をおこなった感想との関連

活動が「うまくいっている」団体で、「良かったことがあった」団体は9割を超えている。

「うまくいっていない」団体でも、「良かったことがあった」団体は7割近くを占めている。

子どもたちにかかわる活動を実施して、良かったと感じている団体が多いことが分かる。



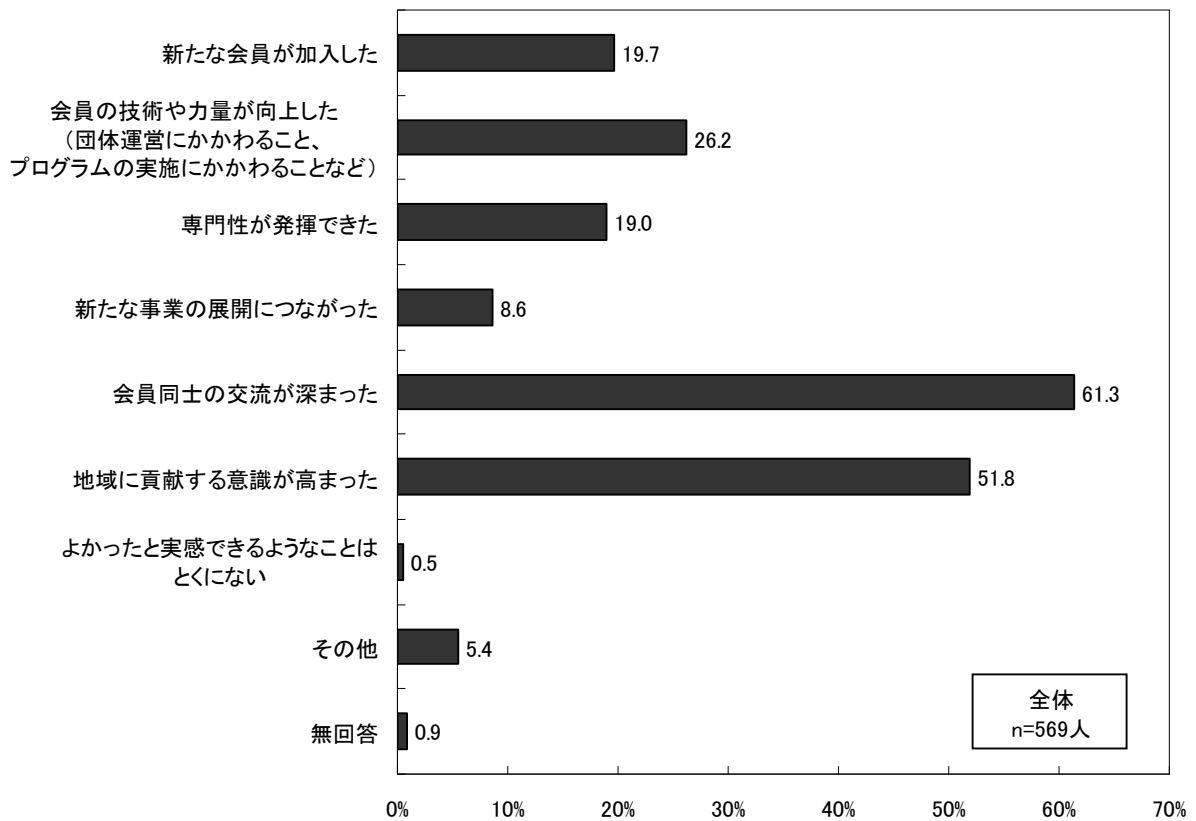
(7) 活動をおこなって良かったこと

<問6で「良かったことがあった」を選んだ団体のみ回答>

問7 良かったことがあったと思われることはどのようなことですか。
あなたの団体にとって、地域にとって、子どもたちにとって、それぞれ、あてはまる番号にすべて○をつけてください。(MA)

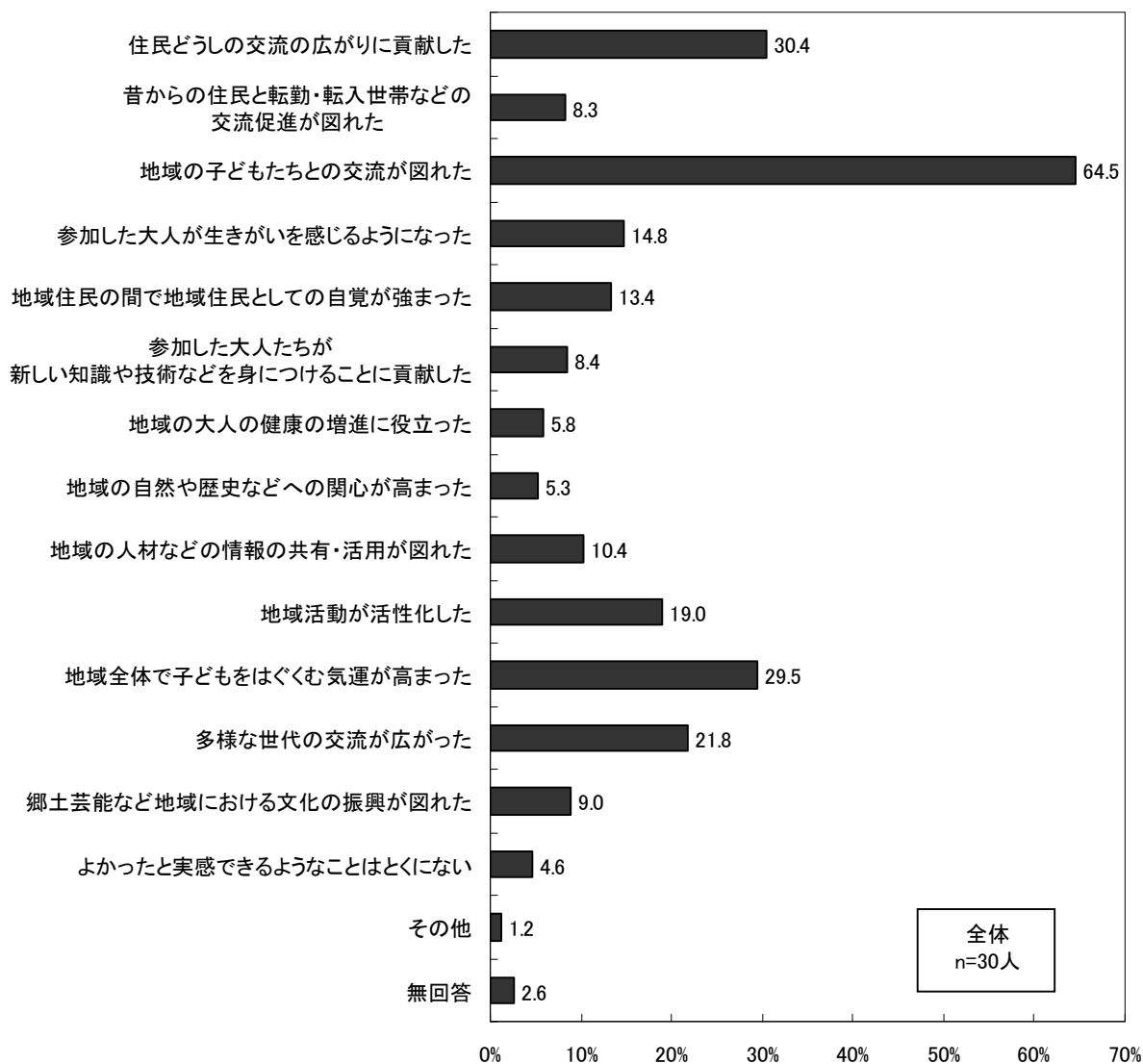
【あなたの団体にとって】

活動を「おこなっている」、そして「良かったことがあった」団体について、「団体にとって良かったこと」をみると、「会員同士の交流が深まった」(61.3%)が最も多い。次に「地域に貢献する意識が高まった」(51.8%)、「会員の技術や力量が向上した(団体運営にかかわること、プログラムの実施にかかわることなど)」(26.2%)、「新たな会員が加入した」(19.7%)の順に続く。



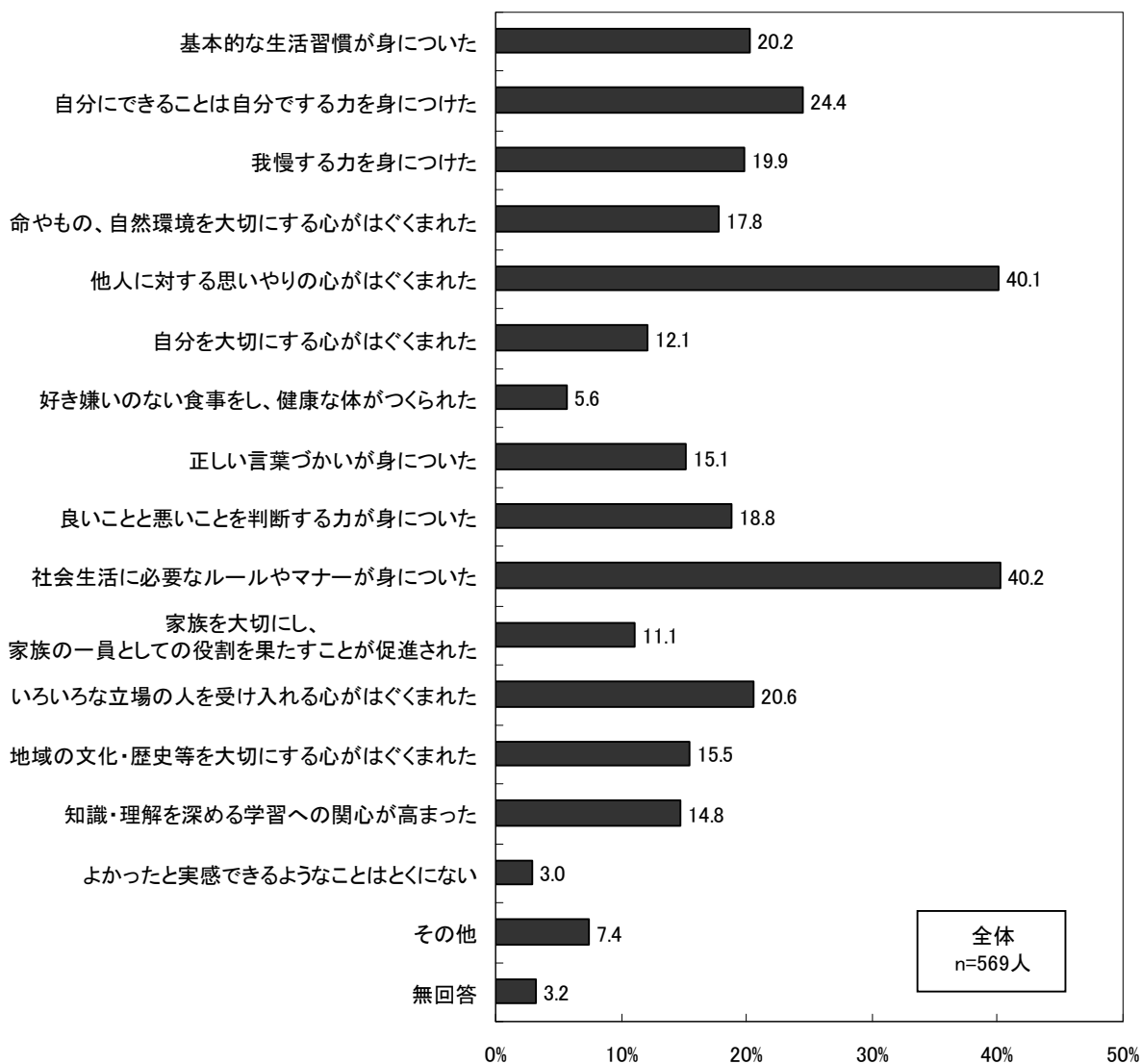
【地域にとって】

活動を「おこなっている」、そして「良かったことがあった」団体について、「地域にとって良かったこと」をみると、「地域の子どもたちとの交流が図れた」(64.5%)が最も多く6割を超えている。次に「住民どうしの交流の広がり貢献した」(30.4%)、「地域全体で子どもをはぐくむ気運が高まった」(29.5%)、「多様な世代の交流が広がった」(21.8%)の順に続く。



【子どもたちにとって】

活動を「おこなっている」、そして、「良かったことがあった」団体について、「子どもたちにとって良かったこと」をみると、「社会生活に必要なルールやマナーが身についた」(40.2%)が最も多い。次に「他人に対する思いやりの心がはぐくまれた」(40.1%)、「自分にできることは自分でする力を身につけた」(24.4%)、「いろいろな立場の人を受け入れる心がはぐくまれた」(20.6%)の順に続く。



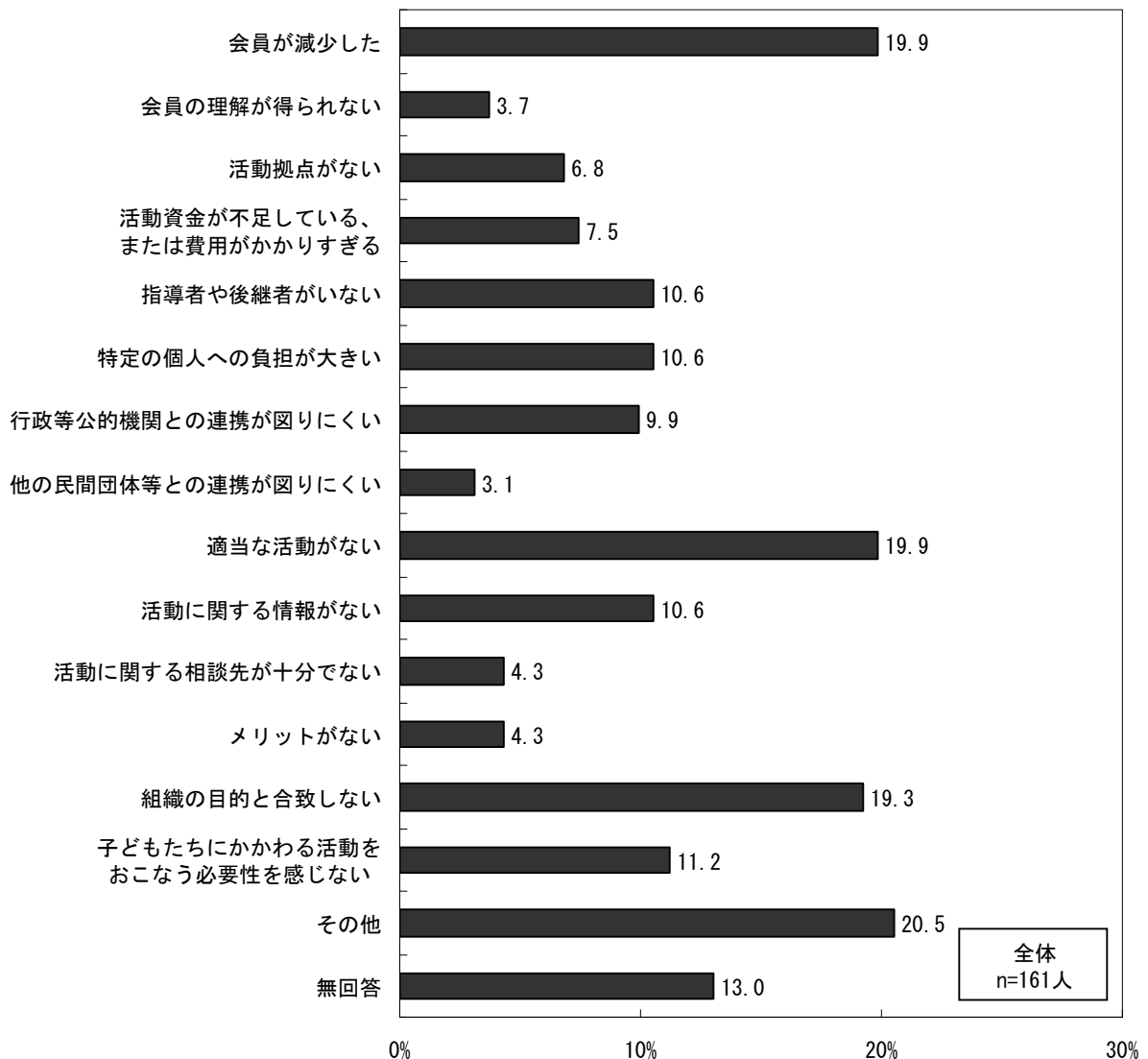
(8) 活動をおこなっていない理由

<問1で「以前はおこなっていたが、今はおこなっていない」、「おこなっていない」を選んだ団体のみ回答>

問8 問1で「2. 以前はおこなっていたが、今はおこなっていない」「3. おこなっていない」を選んだ団体のみお答えください。

地域において、あなたの団体が子どもたちとかかわる活動をおこなっていない理由として、あてはまるもの3つまで選び○をつけてください。(3A)

子どもたちにかかわる活動を「現在おこなっていない」団体の理由をみると、「その他」(20.5%)を除くと、「会員が減少した」(19.9%)、「適当な活動がない」(19.9%)が同ポイントで最も多い。次に「組織の目的と合致しない」(19.3%)、「子どもたちにかかわる活動をおこなう必要性を感じない」(11.2%)の順に続く。



「2. 地域で団体が子どもたちにかかわる活動の様子について」の総括

この章のアンケート結果からはっきり見えることは、多くの団体は子どもたちにかかわる活動に対し積極的に展開していることである。そしてその活動を進めることで団体内部の人間関係がうまくいき、団体の活動自体が進化している点である。子どもたちとかかわる活動は、たんに子どもたちの成長に寄与するだけではなく、活動団体内の会員同士の人間的つながりを強くしていくこと、またその活動団体が基本的な活動拠点を維持することができていることを意味しているのである。その意味では社会活動がうまくいっている団体と子どもたちとかかわっている団体とでは対応関係を見て取ることができる。以下具体的に見てみよう。

団体の活動で子どもたちにかかわる活動を行っている団体は全体の73.8%であり、このうちでもっとも高い団体の割合は青少年育成協議会、子ども会、小・中学校PTAと続く。これら団体は活動の主目的が子どもたちに関する事なので当然であるといえる。しかし、地域コミュニティ協議会87.5%、伝統文化に関わる団体75.0%と直接子どもたちとかかわる目的を持っていない団体も子どもたちとのかかわりを持っているということが見える。

また活動内容は、町内会などの地域活動や地域行事にかかわる活動(32.8%)、スポーツや体力づくりに関する活動(23.9%)という内容が高い。また学校以外での学校への協力(23.6%)、学術・文化活動(20.2%)なども高い。このような内容で子どもたちにかかわる団体活動がうまくいっているのかを聞いたところ、「うまくいっている」との回答が、70.5%であった。これを団体別にみるとほぼ活動を展開している団体と傾向が一致している。うまくいっている団体にその要因を尋ねたところ、「同じ思いを持った仲間が集まっている」(46.4%)が高く、「組織内の役割分担がうまく機能している」(41.7%)、「活動拠点がある」(36.5%)、「地域内の学校や幼稚園・保育園などの協力を得ることができている」(36.3%)と続く。活動仲間の連携が取れ、活動拠点があるとその団体はうまく機能していることがわかる。そして子どもたちにかかわる活動は、学校や幼稚園・保育園と連携しやすいために活動がより進めやすくなるといえる。

ただし、気になることは活動拠点が公民館・図書館である団体が少ない点である。それは「地域内の公民館や図書館などと連携がある」(10.0%)、「地域内の商店や商工会などと連携がある」(2.1%)と回答した団体が少ないことから明瞭である。社会全体で「子育て」やその支援を考えると、このような社会教育施設や地域関係機関との連携は子どもたちの社会的成長を勘案すれば、極めて重要である。また社会教育は「地域で始まり地域で終わる」と指摘されているように、地域との結びつきがポイントであり、同時に社会教育は地域の豊かな発展を展望する事業であることを踏まえると、地域の将来を担う子どもたちといかにつながっていくかがキーとなると考える。以上のように考えると、今後これら団体が子どもたちの活動といかにかわるかは重要な課題であろう。

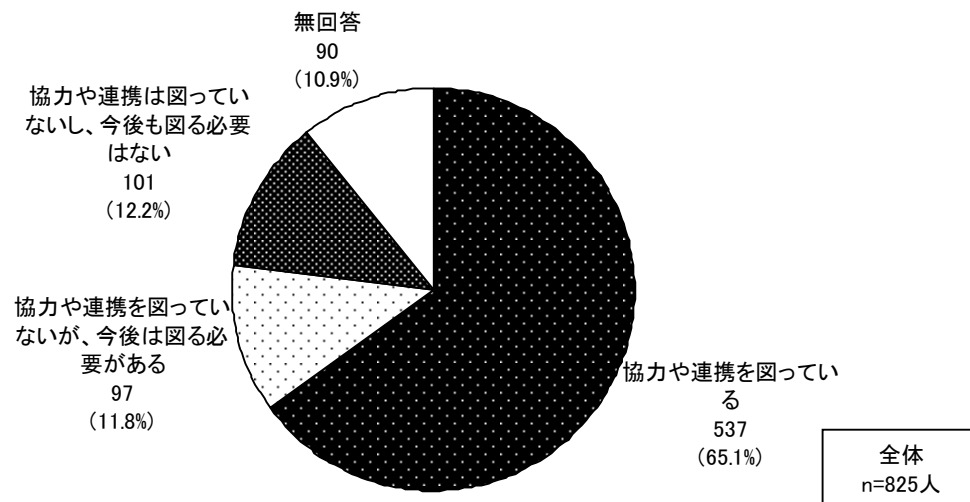
3. 他の団体や機関などとの協力や連携の状況について

(1) 協力や連携の有無

問9 現在、あなたの団体は、地域において活動をおこなうにあたり、他の団体や機関などとの協力や連携を図っていますか。あてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(5A)

協力や連携の有無をみると、「協力や連携を図っている」(65.1%)が6割を超えている。

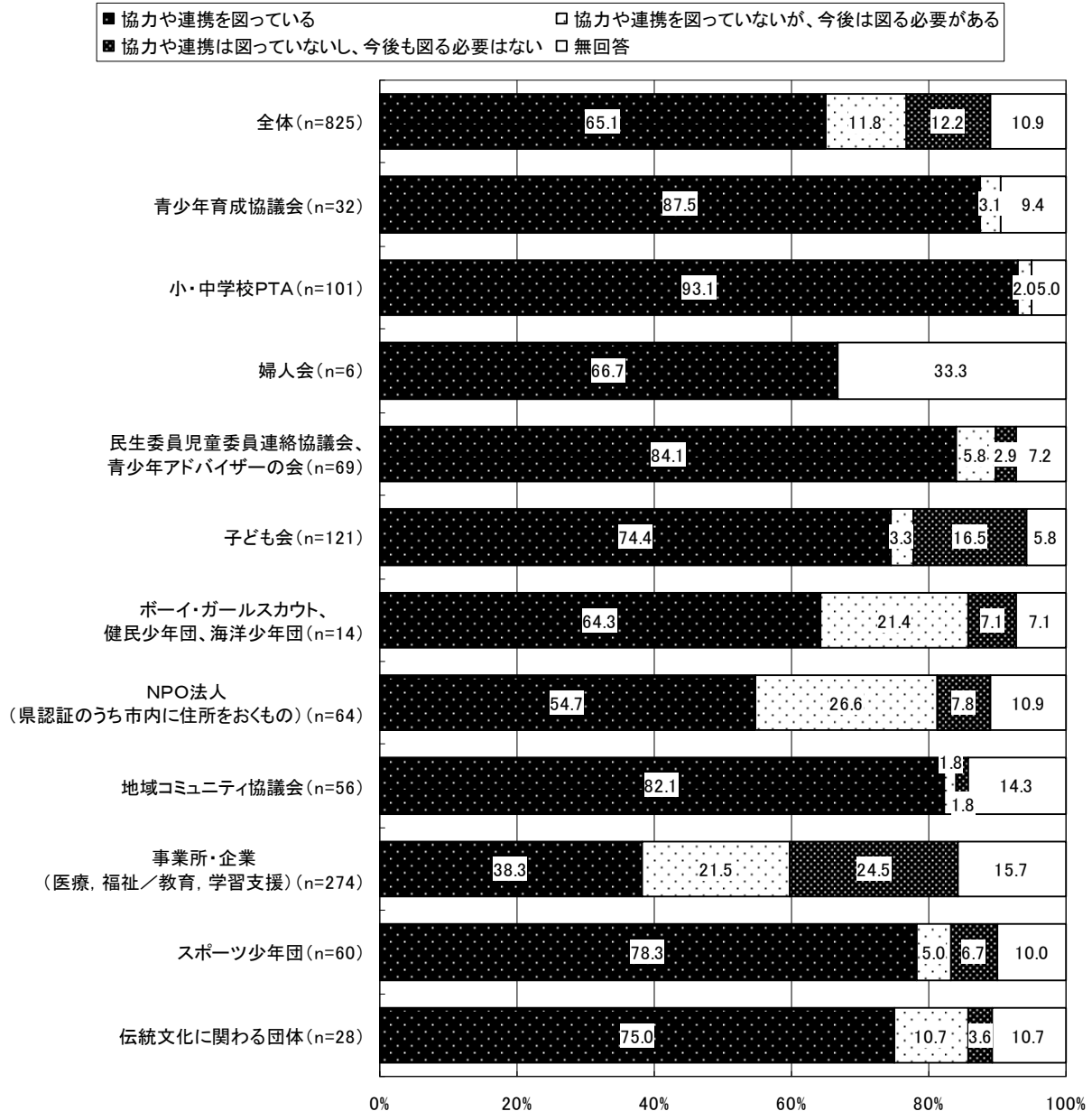
「協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」(11.8%)を合わせると、4分の3以上を占めている。



協力や連携の有無と調査団体区分との関連

「協力や連携を図っている」団体の割合を調査団体区分別でみると、「小学校PTA、中学校PTA」(93.1%)が最も多い。次に「青少年育成協議会」(87.5%)、「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」(84.1%)、「地域コミュニティ協議会」(82.1%)の順に続く。

一方、「協力や連携を図っていないし、今後も図る必要はない」では、「事業所・企業」(24.5%)が最も多い。次に「子ども会」(16.5%)、「NPO法人」(7.8%)、「スポーツ少年団」(6.7%)の順に続く。



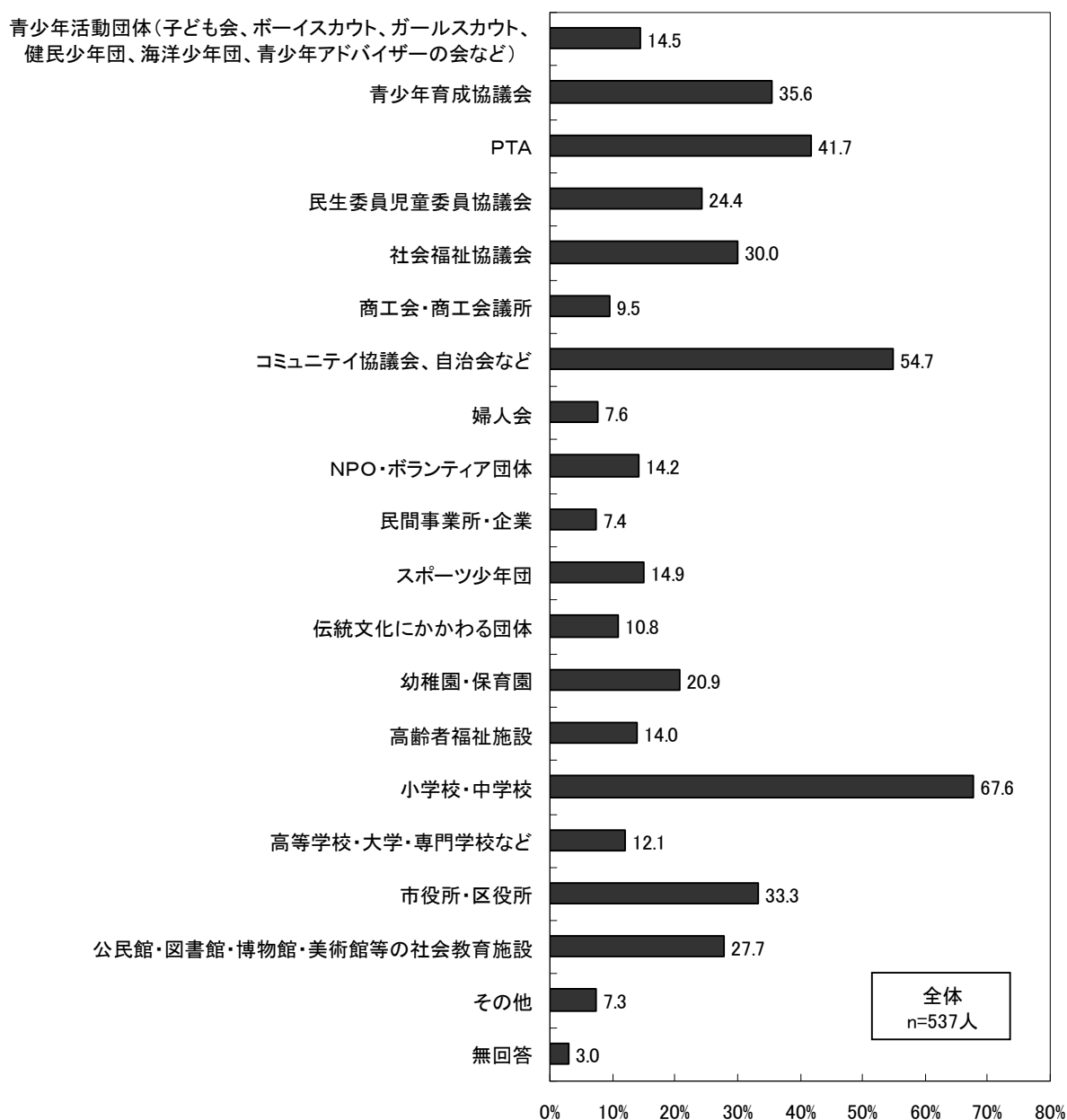
(2) 協力や連携の相手先

<問9で「協力や連携を図っている」を選んだ団体のみ回答>

問10 「1. 協力や連携を図っている」を選んだ団体のみお答えください。

- ① 現在、どのような団体や機関と協力や連携を図っていますか。
あてはまるものをすべて選び○をつけてください。(MA)

「協力や連携を図っている」団体のその他の相手先をみると、「小学校・中学校」(67.6%)が最も多い。次に「コミュニティ協議会、自治会など」(54.7%)、「PTA」(41.7%)、「青少年育成協議会」(35.6%)の順に続く。



(3) 今後望む協力や連携の相手先

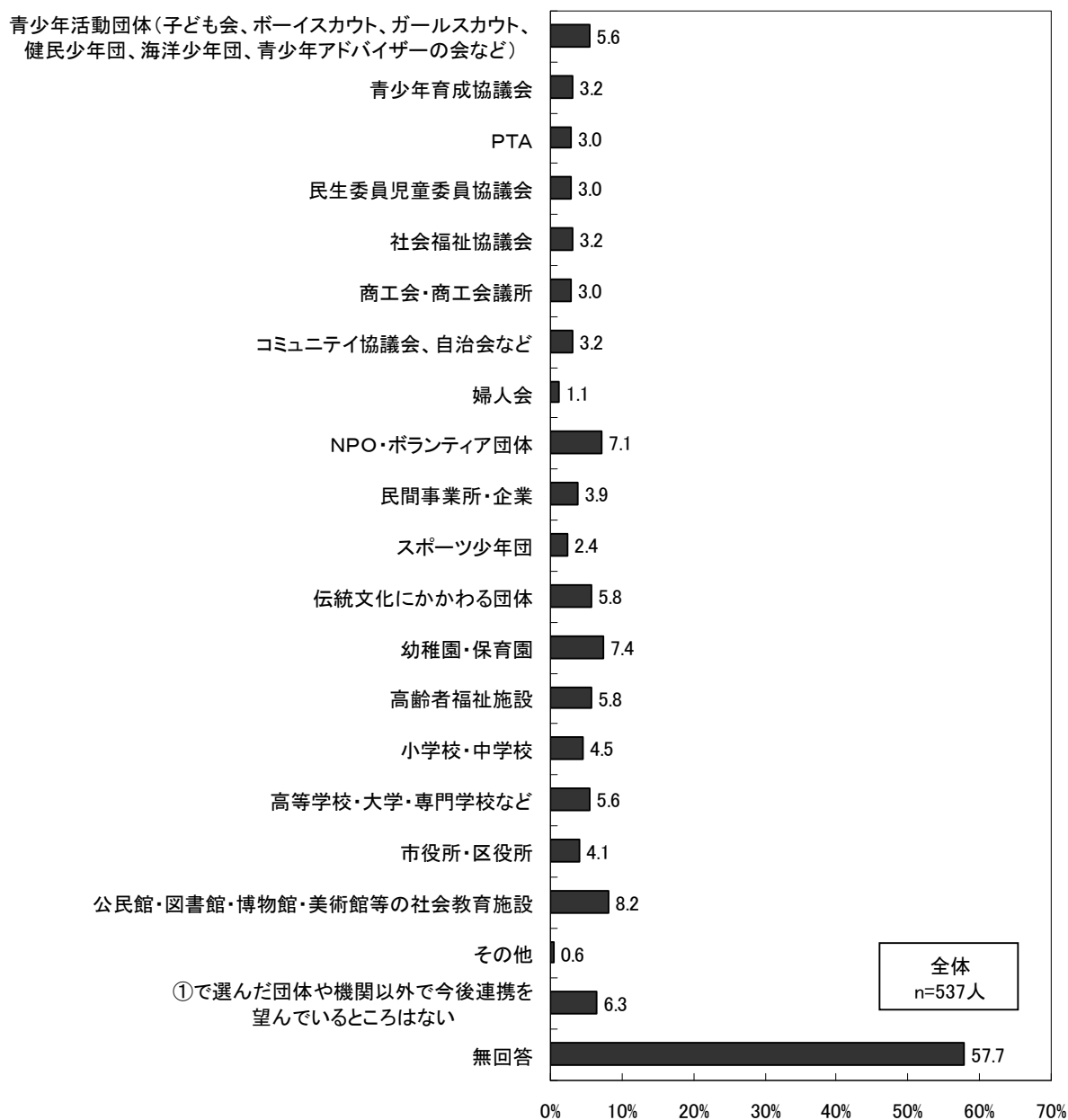
<問9で「協力や連携を図っている」を選んだ団体のみ回答>

問10 「1. 協力や連携を図っている」を選んだ団体のみお答えください。

② 今後、①で選んだ団体や機関以外でどのような団体や機関との連携を望みますか。

あてはまるものをすべて選び○をつけてください。(MA)

「協力や連携を図っている」団体について、現在のその相手先以外に今後望む相手先をみると、「公民館・図書館・博物館・美術館等の社会教育施設」(8.2%)が最も多い。次に「幼稚園・保育園」(7.4%)、「NPO・ボランティア団体」(7.1%)、「現在、協力や連携を図っている団体や機関以外で今後連携を望んでいるところはない」(6.3%)の順に続く。



(4) 「協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」団体が望む協力や連携の相手先

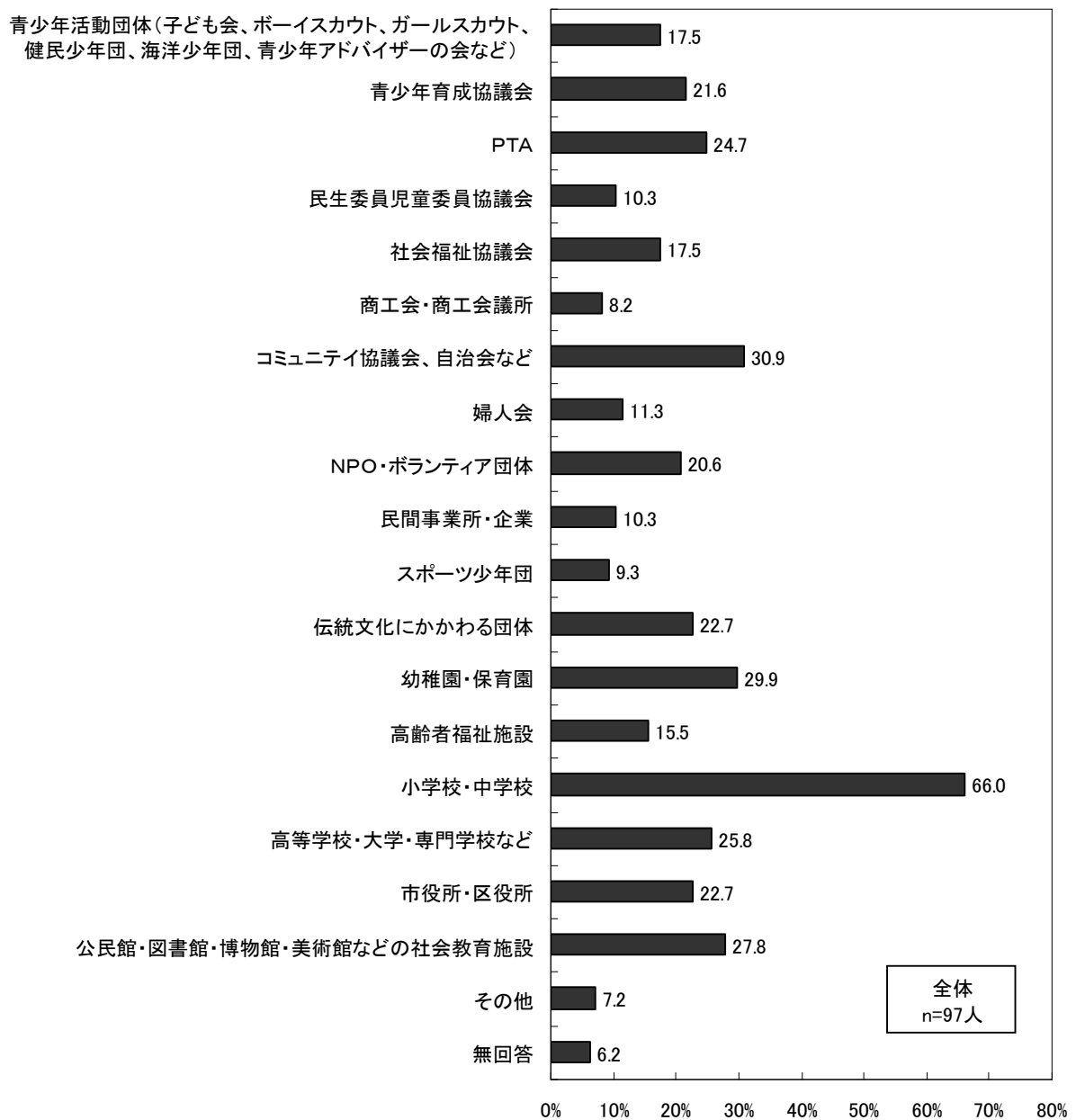
＜問9で「協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」を選んだ団体のみ回答＞

問11 「2. 協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」を選んだ団体のみお答えください。

どのような団体や機関との協力や連携を望みますか。

あてはまるものをすべて選び○をつけてください。(MA)

「協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」団体について、今後望むその相手先をみると、「小学校・中学校」(66.6%)が最も多く7割近くを占めている。次に「コミュニティ協議会」(30.9%)、「幼稚園・保育園」(29.9%)、「公民館・図書館・博物館・美術館などの社会教育施設」(27.8%)の順に続く。

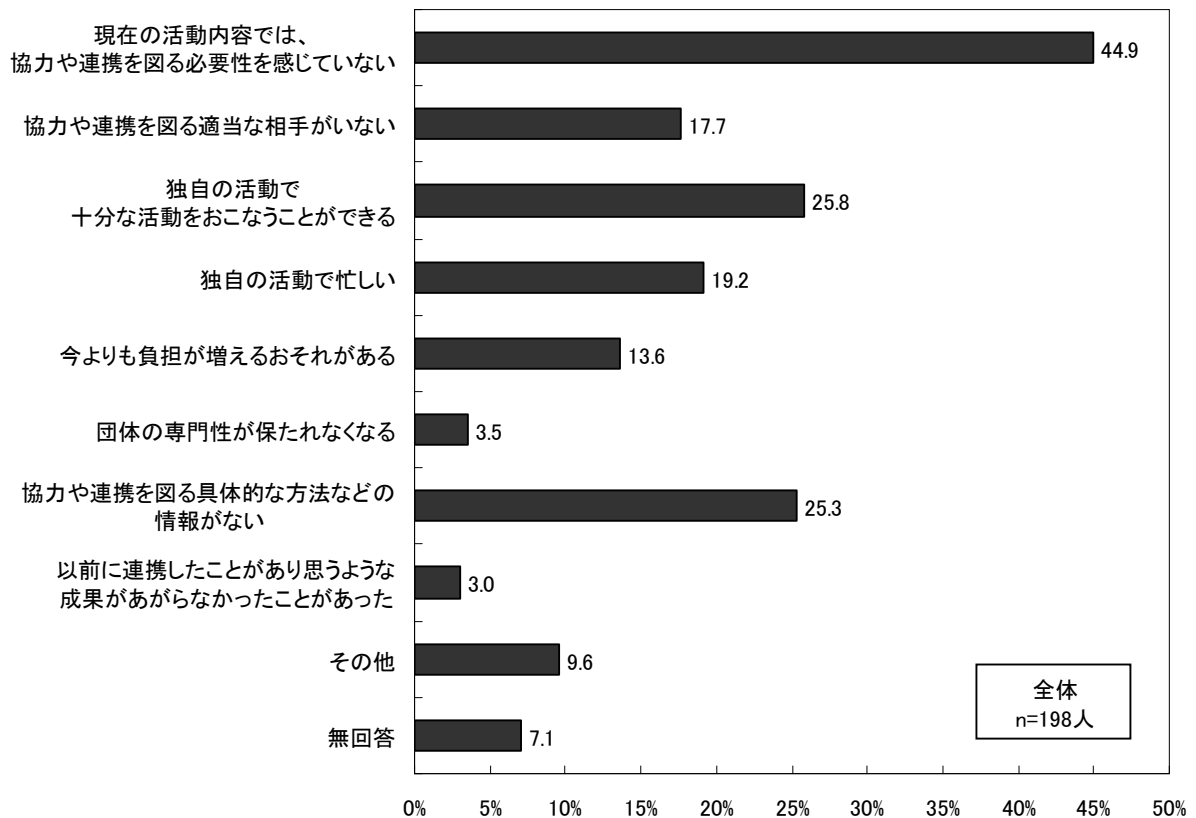


(5) 「協力や連携を図っていない」団体の理由

<問9で「協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」、「協力や連携は図っていないし、今後も図る必要はない」を選んだ団体のみ回答>

問12 「2. 協力や連携を図っていないが、今後は図る必要がある」を選んだ団体の方と「3. 協力や連携は図っていないし、今後も図る必要はない」を選んだ団体のみお答えください。
他の団体や機関などとの協力や連携を図っていない理由についてあてはまるもの3つまで選び○をつけてください。(3A)

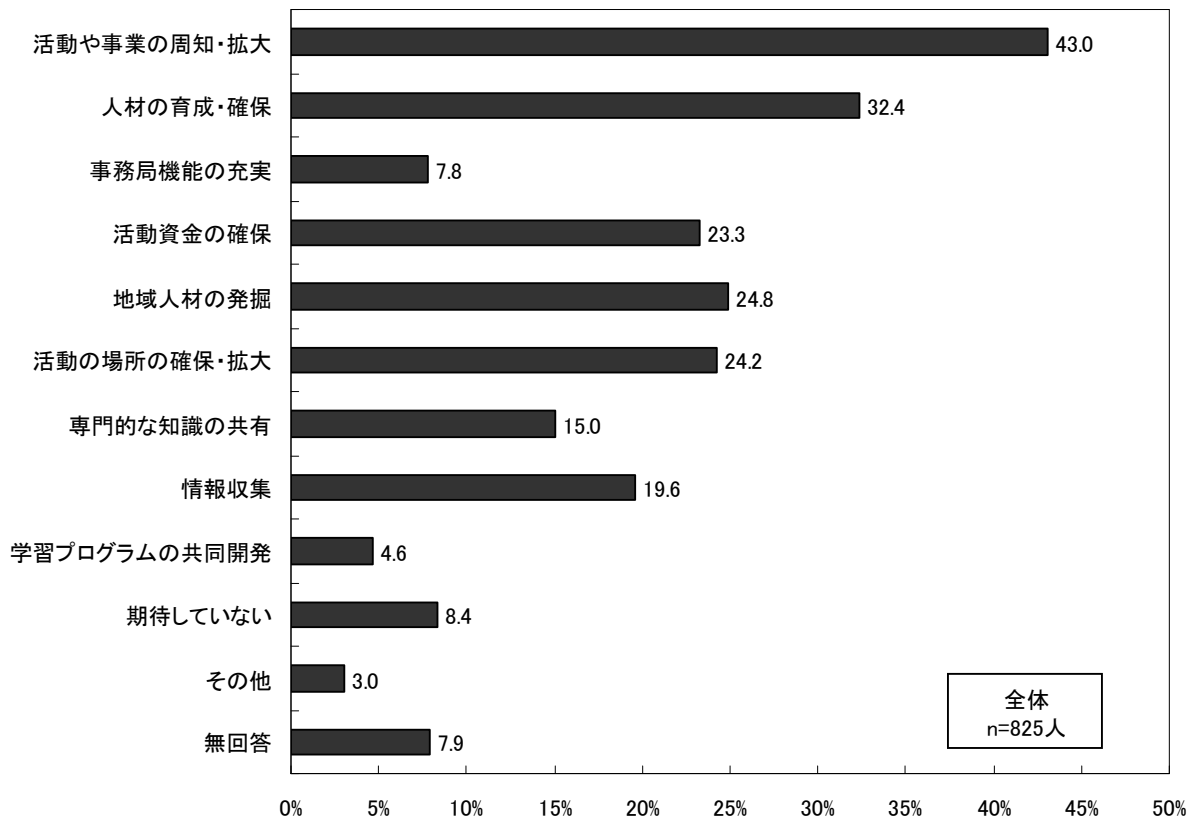
「協力や連携を図っていない」団体の理由をみると、「現在の活動内容では、協力や連携を図る必要性を感じていない」(44.9%)が最も多い。次に「独自の活動で十分な活動をおこなうことができる」(25.8%)、「協力や連携を図る具体的な方法などの情報がない」(25.3%)、「独自の活動で忙しい」(19.2%)の順に続く。



(6) 協力や連携に期待すること

問13 今後、あなたの団体が他の団体や機関などとの協力や連携に期待することについて、あてはまるもの3つまで選び○をつけてください。(3A)

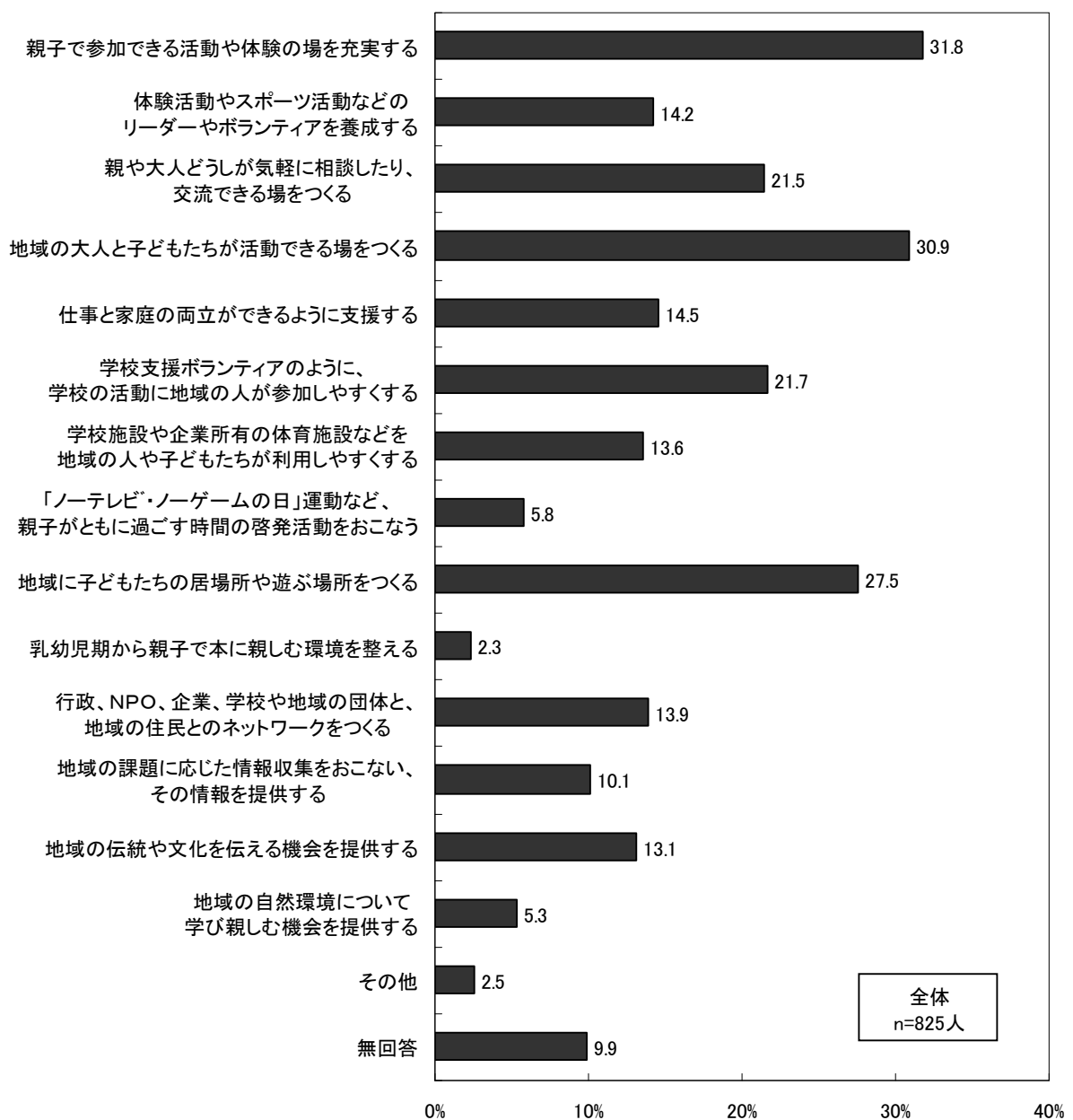
全ての団体について、協力や連携に期待することをみると、「活動や事業の周知・拡大」(43.0%)が最も多い。次に「人材の育成・確保」(32.4%)、「地域人材の発掘」(24.8%)、「活動の場所の確保・拡大」(24.2%)の順に続く。



(7) 地域全体で子どもたちをはぐくむために力を入れるべきこと

問14 地域全体で子どもたちをはぐくむためには、行政、NPO、企業、学校、地域の団体（地域コミュニティ協議会、子ども会、PTAや青少年団体など）はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。
あてはまるもの3つまで選び○をつけてください。（3A）

地域全体で子どもたちをはぐくむために、各団体が力を入れるべきことをみると、「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」（31.8%）が最も多い。次に「地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる」（30.9%）、「地域に子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」（27.5%）、「学校支援ボランティアのように、学校の活動に地域の人が参加しやすくする」（21.7%）の順に続く。



「地域全体で子どもたちをはぐくむために力を入れるべきこと」と団体調査区分との関連

「地域全体で子どもたちをはぐくむために、各団体が力を入れるべきこと」について、調査団体区分別に回答の傾向をみると、「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」は、「青少年育成協議会」（50.0%）と「事業所・企業」（29.2%）で最も多い。「地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる」は、「地域コミュニティ協議会」（53.6%）で最も多い。「地域に子どもたちの居場所や遊ぶ場をつくる」は、「子ども会」（62.0%）と「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」（36.2%）で最も多い。「学校支援ボランティアのように、学校の活動に地域の人に参加しやすくする」は、「小学校PTA、中学校PTA」（35.6%）、「民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会」（86.2%）で最も多い。

	問14.地域全体で子どもたちをはぐくむために、行政、NPO、企業、学校、地域の団体が力を入れるべきと思うこと																
	親子で参加できる活動や体験の場を充実する	体験活動やスポーツ活動などのリーダーやボランティアを養成する	親や大人どうしが気軽に相談したり、交流できる場をつくる	地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる	仕事と家庭の両立ができるように支援する	学校支援ボランティアのように、学校の活動に地域の人が参加しやすくする	学校施設や企業所有の体育施設などを地域の人や子どもたちが利用しやすくする	がとにも過こす時間の啓発活動をおこなう	「ノーテレビ・ノーゲームの日」運動など、親子	地域に子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる	乳幼児期から親子で本に親しむ環境を整える	行政、NPO、企業、学校や地域の団体と、地域の住民とのネットワークをつくる	地域の課題に応じた情報収集をおこない、その情報を提供する	地域の伝統や文化を伝える機会を提供する	地域の自然環境について学び親しむ機会を提供する	その他	無回答
全体 (n=825)	31.8	14.2	21.5	30.9	14.5	21.7	13.6	5.8	27.5	2.3	13.9	10.1	13.1	5.3	2.5	9.9	
調査団体区分	青少年育成協議会 (n=32)	50.0	21.9	21.9	46.9	9.4	34.4	6.3	6.3	28.1	0.0	12.5	15.6	3.1	6.3	0.0	6.3
	小・中学校PTA (n=101)	34.7	12.9	34.7	35.6	22.8	35.6	11.9	10.9	16.8	0.0	12.9	8.9	6.9	2.0	4.0	5.0
	婦人会 (n=6)	16.7	16.7	16.7	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3
	民生委員児童委員連絡協議会、青少年アドバイザーの会 (n=69)	30.4	14.5	33.3	31.9	11.6	36.2	10.1	7.2	36.2	4.3	17.4	29.0	4.3	5.8	1.4	4.3
	子ども会 (n=121)	42.1	14.9	23.1	36.4	21.5	12.4	14.9	2.5	62.0	2.5	0.8	1.7	5.8	4.1	0.8	1.7
	ボーイ・ガールスカウト、健民少年団、海洋少年団 (n=14)	35.7	42.9	7.1	28.6	14.3	14.3	35.7	0.0	28.6	0.0	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0	7.1
	NPO法人(県認証のうち市内に住所をおくもの) (n=64)	21.9	14.1	21.9	31.3	14.1	14.1	17.2	1.6	15.6	3.1	40.6	15.6	10.9	14.1	6.3	12.5
	地域コミュニティ協議会 (n=56)	35.7	19.6	23.2	53.6	3.6	23.2	10.7	1.8	25.0	0.0	19.6	19.6	19.6	10.7	0.0	7.1
	事業所・企業(医療、福祉/教育、学習支援) (n=274)	29.2	8.8	13.9	20.8	14.2	20.4	10.2	8.0	18.6	3.6	12.8	7.7	19.3	4.4	3.3	16.4
	スポーツ少年団 (n=60)	28.3	25.0	21.7	23.3	11.7	13.3	35.0	3.3	20.0	0.0	11.7	3.3	3.3	0.0	1.7	10.0
伝統文化に関わる団体 (n=28)	7.1	10.7	14.3	35.7	3.6	10.7	7.1	3.6	28.6	3.6	14.3	3.6	57.1	3.6	3.6	14.3	

「3. 他の団体や機関などとの協力や連携の状況について」の総括

地域における様々な団体・機関の協力・連携状況を把握し、今後の方向性を見定めることは、地域の団体・機関のネットワーク化をうながし、地域の教育力向上に資するものである。第3の質問群（問9～問14）はこういったことを意図して設定されている。

問9にみるように、現在は「協力・連携を図っている」団体（以下「連携団体」と略記）が65.1%と多いが、「協力・連携を図っていないし今後も図る必要はない」団体（以下「非連携団体」と略記）が次に多く12.2%、「協力・連携を図っていないが今後は図る必要がある」団体（以下「未連携団体」と略記）11.8%、無回答10.9%となっている。

連携団体の協力・連携先団体（問10①）と未連携団体の協力・連携希望団体（問11）を比較すると、「小学校・中学校」（連携団体67.6%・未連携団体66.0%。以下同様）、「公民館・図書館・博物館・美術館等の社会教育施設」（27.7%・27.8%）は高い選択率でほぼ同じ選択率であるが、「コミュニティ協議会、自治会など」（54.7%・30.9%）、「PTA」（41.7%・24.7%）、「青少年育成協議会」（35.6%・21.6%）、「市役所・区役所」（33.3%・22.7%）、「社会福祉協議会」（30.0%・17.5%）、民生委員児童委員協議会（24.4%・10.3%）と、連携団体が結びついているほどには未連携団体は協力・連携を望んでいないことがわかる。

一方、「幼稚園・保育園」（20.9%・29.9%）、「高等学校・大学・専門学校など」（12.1%・25.8%）、「伝統文化に関わる団体」（10.8%・22.7%）、「NPO・ボランティア団体」（14.2%・20.6%）などにおいて未連携団体の希望が、連携団体の結びつきよりも高い。専門性の高い団体・機関との協力・連携が今後の方向性の一つと言えそうである。

しかし、協力・連携が進みそうであるかと言えば、一概にそうは言えない。連携団体の36.0%しか、これから協力・連携を拡大しようと思っていない（問10②で、無回答57.7%と「他に連携を望むところはない」6.3%を除いた割合）。問12の非連携団体が協力・連携を希望しない理由を見ると、3、5位が「情報が不十分」（25.3%）、「適当な相手がいない」（17.7%）であり、こういった団体に対しては、情報提供を行うことで協力・連携を進める可能性が見込まれる。しかし、1、2位の回答は「必要性がない」（44.9%）、「独自の活動で十分」（25.8%）であり、非連携団体の多数は連携団体に転化しにくい。

これらの原因としては、協力・連携のメリットが見えにくいからではないだろうか。問13では協力・連携に期待することを聞いている。「期待」であるので、最大選択できる3つまで回答してよさそうなどころではあるが、平均選択数は2.36個（「期待していない」と無回答を除く）、しかも最も高率の「活動や事業の周知・拡大」でさえ43.0%にとどまる。子どもの教育にかかわる団体・機関そのものの情報だけでなく、それら諸団体・機関間の協力・連携の効果を明らかにし、かつそれを周知していく施策が求められる。

「地域全体で子どもたちをはぐくむためにはどのようなことに力を入れたらよいか」（「その他」含む15選択肢より3つまで選択可）ということについては、「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」（31.8%）、「地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる」（30.9%）、「地域に子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」（27.5%）といった回答が多い（問14）。

諸団体・機関の連携を深める方策としても、これらの施策を位置づけることが考えられる。
